二　明治十四年七月～十二月

（表紙）
「家譜　慶永公　従明治十四年七月　到同年十二月　二百十巻追加　十一」

明治十四年

一七月一日皇太后宮大夫ゟ

来ル六日午前九時ゟ青山御所ニ於テ番能御催相成候間、御所望ニ候ハヽ御推参可有之候、御一列江も御伝可有之、此段申入候也

十四年七月一日　皇太后宮大夫万里小路博房

右中山忠能殿より御廻達有之候

一同日祠堂に於て浅姫命の正忌祭中祭を執行せらる、祭主正二位様・副祭主正四位様、供饌七台

一同日本多副元以下五名を招き、在京旧臣一同協議、毎年親睦会を開らく事にして如何の旨示諭せらる、在福井旧臣の輩ハ已に懇親会結合の挙ありし故、在京の輩に其挙なき遺憾とせられし故なり、御招きの人名左の如し

本多副元（不参）　由利公正　村田氏寿　堤　正誼　田辺良顕（不参）

一七月三日午前十時出門参内せらる、昨日御還幸在らせられし故天機を伺ハれしなり

一御簾中様午後一時御出門歯医渡辺良斎方江被為入、御義歯御新造御依頼相成候、右ニ付御残歯ハ御抜取り相成候事ニ而、今日ゟ数度御通療被遊候

一七月四日前記福井表より為御持鳥子紙御進献ニ付、長谷川皎持参宮内省江出頭、大谷一枝（御旧臣雑掌）江面会、差出方倚托帰邸致候

一同日

一金五拾円　秋田　豊

右ハ今般為御慰労東地へ被召連候ニ付、右旅費并失却旁賜り候事

一七月五日本日北陸鉄道事件ニ付左之御方々御集会相成候

有馬道純殿・土井利剛殿・間部詮道殿御代理宮本敦・小笠原長育殿・本多副元・多賀少書記官・土井家随従小野立誠・由利公正・村田氏寿・堤正誼等会集、協議済御酒肴・御膳御差出ニ相成候

一同日午前九時出門、例月の天機伺として参内せらる

一鉄道事件於当邸第三会決議、線之事（第三会）

一越前敦賀ヨリ越中富山江達スルヲ第一着手トス　七千円　富　前田利同
一近江従長浜線路ヲ延テ勢州四日市江達スルヲ第二着手トス　五千円　大　前田利鬯
一美濃大垣線路ヲ以テ名古屋へ達シ、越中富山ヨリ越後新潟へ　五万円　松平茂昭
達スルヲ第三着手トス　千円　有馬道純
一会社名称之事　五千円　土井利恒
東北鉄道会社ト称ス　四千円　間部詮道
一創立願捧呈期限之事　三千円　本多副元
一各家委員実地派遣之事　五千円　誠照寺
通信之事　未定　両本願寺
但両県地ヨリも同断之事　凡拾五万円或弐拾万円
一株金額之事　未定　小笠原長育
但弐拾五円ヲ以一株トス　外ニ壱万五千円　土井利恒
一株主払込年割之事
五ケ年十回之事
一鉄道事務所位置之事　右集会来集人左之通
本社ノ位置ハ追而会議ノ上定ムルコトトス　石川県令千坂高雅・福井県令代理多賀義行少書記官・土井利恒殿・
但当分東京江仮事務所ヲ置ク　前田利同殿代理佐々高柯・前田利嗣殿代理寺西成器・前田利鬯
一石川福井両県江鉄道集会期限之事　殿代理丹羽栄太郎・前田幹・有馬道純殿代理池内魯竜・東本願
実地之事情ヲ謀リ両県ゟ東京へ報道之事　寺代理牧野大昭・土井利恒殿代理小野立誠・小笠原長育殿代理関
一各家委員権限并委任状之事　明信・間部詮道殿代理宮本敦・西野慶悟・石丸白英・石川県三
出金高凡積　等属村田昌寛・福井県御用掛桃井直純・正二位様・正四位様・
弐拾万円　前田利嗣　由利公正・武田正規、御相談済御酒肴御饗応、御飯済御生菓子
出、午後第九時一統御退散

一七月九日左之通御家令ゟ伺之処、御許可を蒙り候ニ付夫々及シ相成候

当七月前半年之謝義或ハ諸払等ノ為メニ、表奥之面々并家丁・家婢ニ至ル迄失費相嵩ミ難渋候廉も御坐候ニ付、特別ノ廉ヲ以、当七月ニ給之儀ハ以来十日御渡被成下候哉

一天野五平江家丁同様看板夏冬御渡被成下候哉

一松島佐平義老年ニ及ひ家丁出精相勤、御用弁にも相成候ニ付、月給弐拾五銭御増被下候様

右三ケ条奉伺候

明治十四年七月七日　家務局

（朱書）「伺之通　明治十四年七月九日　○○」

金拾五円　佐野　久

金拾円　中島直蔵

金七円　持田弥市

右者福井御滞在中格別勉励、加之多少失却も有之候ニ付、御慰労旁右金額被下候哉

明治十四年七月九日　家務局

（朱書）「伺之通　明治十四年七月十一日　○○」

今般福井滞在中格別勉励、加之多少失却も有之候ニ付、金弐拾円慰労旁武田正規へ被下之義、正二位様ゟ鈴木準道へ御指令ニ相成候

一七月九日

酒井鐐姫様ゟ　金弐百疋　御花料

稲葉於鏗（コウ）様ゟ　金参百疋　御花料

本多於鋹様ゟ　金三百疋　御花料

正二位様・御弐所様江

細川宏姫様ゟ　粕テーラ玉子　壱折壱重

右者明十日青松院様十年御祭典御執行ニ付、御備并ニ被進相成候

一同日明十日青松院様御正忌之処、御祭典等御都合ニ寄本日天徳寺江為御廟拝被為入候

一七月十日本日礼井命十年祭御執行ニ付神殿御装飾、十時ゟ御式始り御祭主正二位様、副御祭主正四位様御執務被為在、神饌十一台（神酒・餅・甘菜・辛菜・海魚・川魚・水菓子・干菓子・生菓子・洗米・塩・水）、伶人三名音楽合奏、筆姫様午前十時前御来邸、御菓子壱折御備

御招左之通

筆姫様　近藤幸殖　同人母　近藤幸止

徳川達孝様　同女中（元御附さわいせ）　木村さわ　山沢静寿

芳野すけ（八十瀬）　いく（小野田）　田辺梶野

御料理

御菓子（金玉糖・同金玉まん寿）　吸物　口取物　茶椀盛　刺身　鉢肴

向附椀盛　飯　香の物　御膳後　冷しそふめん　鮎（外に蕎麦）

伶人（今村今・樋口健之介・佐々木源十郎）御料理例之通、御謝銭（金八拾銭ツヽ）
徳川達孝様ゟ（金弐百疋）（水泉まん寿一重）
金三拾銭　さわ
金三拾銭　（八重・滝・きた・長生）ゟ
金壱円（外ニ菓子）　近藤幸殖父子
榊　壱筒　武田正規　始
煎餅　壱台　（静寿・駒野・崎尾・ふじ）
玉子　壱折　梶野
蒸菓子　壱折　いせ
右御神前江御備ニ相成
酢し　奥表十八人
金拾銭ツヽ　家丁・家婢
右御供養被下ニ相成候

一七月十一日
正二位様へ　（粕てい白縮壱反）
松平定安様ゟ
右者春来直応様御一条彼是御心配之為御挨拶、以御使者被進ニ相成候

一海上保険会社ニ於テ東北鉄道会社第四会開設ニ付、武田正規出頭致候

一七月十四日今夕由利公正・堤正誼・村田氏寿・田辺良顕等来会、武田正規宅に於て鉄道事件ニ付内会議を開き、畢て酒飯を饗す

一七月十五日午前九時出門、例月の天気伺として参内せらる

一徳川達孝様御旅行御願御指出ニ付、左之通御調印御依頼ニ相成候

旅行願　私儀

今般京都府下西京泉涌寺江参拝仕、夫ヨリ兵庫県下摂津国有馬郡有馬温泉へ湯治相越候ニ付、往復日数共六十日間御暇被下候様、此段奉願候也

明治十四年七月　（第二部華族）従五位徳川達孝
（第二部華族）正二位松平慶永

宮内卿徳大寺実則殿

〆

明十六日勲章授与式被行候ニ付、午前十時大礼服着用参内可有之候也

明治十四年七月十五日　宮内卿徳大寺実則

正二位松平慶永殿

追而実印持参之事

〆

来ル十八日正午十二時御陪食被仰付候旨御沙汰候条、参内可有之候、此段申入候也

明治十四年七月十五日　　宮内卿徳大寺実則

正二位松平慶永殿

追而参内有無御申越有之度、此段添而申入候也

〆

明十六日勲章授与式被行候ニ付、午前十時大礼服着用参内可仕旨謹領奉り候也

明治十四年七月十五日　　正二位松平慶永

追而実印持参拝承仕候也

〆

来ル十八日正午十二時御陪食被仰付候旨、御沙汰之趣謹畏奉り候、命時前参内可仕候也

明治十四年七月十五日　　正二位松平慶永

宮内卿徳大寺実則殿

一七月十六日

徳川令典調之儀ニ付御尽力御苦労存候、依之金七円之割ヲ以前半季四十弐円贈進候也

明治十四年七月十六日　　池田茂政

伊達宗城

松平慶永

宮重更休殿

追而令典調費用ゟ御支払有之度候也

同文言、依之一ケ月金七円之割を以五月・六月分十四円贈進候也

明治十四年七月十六日　　池田茂政

伊達宗城

松平慶永

阿久沢久阿殿

追而同文言

一同日依召御参内之処、被叙勲二等、旭日重光章御拝受

天祐ヲ保有シ万世一系ノ帝阼ヲ践タル日本国皇帝ハ、正二位松平慶永ヲ明治勲章ノ勲二等ニ叙シ、旭日重光章ヲ授与ス、依テ汝ハ此位ニ属スル礼遇及ヒ特権ヲ有スルヲ得ヘシ

神武天皇即位紀元二千五百四十一年明治十四年七月十六日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

睦仁

（朱書）「六日市國璽」

太政大臣兼賞勲局総裁従一位勲一等三条実美

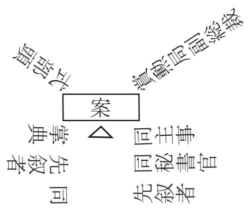
議官兼賞勲局副総裁従四位勲二等大給恒

（朱書）「

」

此証ヲ勘査シ第八千七百七号
ヲ以テ勲簿冊ニ記入ス

賞勲局主事兼太政官大書記官従五位平井希昌
賞勲局一等秘書官兼太政官少書記官正六位横田香苗



但七月十六日此日午前十時御用召ニ而、八時三十分御大礼服御佩剣御参内、於小御所太政大臣三条殿より旭日重光章御手授、副総裁大給恒殿より勲記御受取叙勲二等、御退朝直ニ勲章御佩用、宮内省江御礼被仰上、青山御所同断、三大臣・宮内卿へ御礼勤御帰邸、村田氏寿始御令扶従、奥表一統御歓申上候、尚又部長局へ左之通御届相成候

本日依召大礼服着用参内候処、被叙勲二等、旭日重光章下シ賜り候、此段及御届候也

明治十四年七月十六日　正二位勲二等松平慶永

華族会館幹事御中

同断ニ付部長局江左之通御届ニ相成候

私儀

本日依召参内候処、被叙勲二等、旭日重光章拝受仕候、此段御届申候也

明治十四年七月十六日　正二位松平慶永

副督部長東久世通禧殿

一同日勲章御拝授ニ付、福井御旧臣へ御通報ノ為メ御家従鈴木忠夫迄電報

一永頼様御太切ニ被為及候条、岩佐純・橋本綱常ゟ申上ニ相成、奉絶言語候御事ニ有之候、然ル処本日ハ正二位様御用召之御事故、御内実ハ御逝去之御事ニ候得共、御発表ハ御見合（正二位様御勲章御拝授ニ付）ニ相成居、午後二時十分（実ハ午前五時前七分）御逝去被遊候被仰出ニ相成候、御葬送済迄御邸内音曲・高声可慎之旨被仰出之、但御祭式総而神官杉浦勝雅江御倚頼相成候、今午後十時御遺骸御納棺無御滞被為済候

一七月十七日午後四時過より正二位様御家令武田正規御召連ニ而、築地近源亭江被為入、由利公正始御旧臣之面々御招集、鉄道事件賛成加入之義等御説諭有之、畢而御酒肴被下ニ相成候

一正二位様左之通御差出相成候

第八千七百七号

領票

天皇陛下ハ臣慶永ヲ勲二等ニ叙シ、併テ旭日重光章ヲ賜ハリ、此ニ属スル特権礼遇ヲ有セシムル旨ヲ明載セシ勲記ヲ授ケラル、臣慶永ハ此寵栄ヲ荷ヒ、益微衷ヲ効シ貴重ナル章飾ニ恥サランコトヲ誓フ、以聞

右御執奏可被下候也

明治十四年七月十六日

正二位勲二等賜旭日重光章松平慶永㊞

賞勲局総裁三条実美殿

賞勲局副総裁大給恒殿

一七月十八日

一正二位様御陪食御断

本日御陪食被仰付候処、所労ニ寄参内難仕候間、宜御執奏奉願上候、右御断奉申上候也

明治十四年七月十八日　正二位松平慶永

宮内卿徳大寺実則殿

一同日午前二時永頼様御遺骸御発棺、品川海晏寺御葬送、暁方五時同処御着棺、御祭済直ニ御埋葬無御滞被為済候、御葬主康荘様・御執務祭官杉浦勝雅奉仕候也

叙勲者履歴届書心得

第一条

新タニ勲等ニ叙セラレタル者ハ第二条雛形ニ照準シ、履歴書相認用紙美濃紙二週間以内往復日数ヲ除ク之ヲ賞勲局ニ届出ツヘシ

但シ従前勲等ニ叙セラレタル者ハ、此心得承了ノ日ヨリ本文同様ノ日数内ニ届出ヘシ

第二条

履歴書雛形

本貫族籍元本貫元族籍

苗字名年号月日某国郡町村ニ於テ生

年号月日

一任某官或ハ某職被仰付事申付候事

但達書全文ヲ書載スヘシ

同上

一免本官或ハ某職被差免候事差免候事

但同上

同上

一叙某位

但同上

同上

一外国御用出張復命ノ時オモ書載

但同上

同上
一賞典
但同上
同上
一責罰
但同上
第三条
勲等ニ叙セラレタル者ハ第二条履歴書ノ廉届済ノ後、左ノ事項有之節賞勲局ニ届出スヘシ用紙美濃紙
但届出期限ハ第一条ノ例ニ同シ
一現ニ官位アル者ハ転免・黜陟等有之節
但達書全文ヲ書載シ届出ツヘシ
一非職ノ者新タニ任官・叙位ノ命ヲ拝シタル節
但同上
一外国御用出張ノ命ヲ受タル節及復命ノ節
但同上
一賞典及責罰ヲ受タル節
但同上
一外国旅行ハ公私用ヲ論セス発航及帰朝ノ節
一本貫属籍転換之節
一苗字名変改之節
一住所転換ノ節
但叙勲ノ節ノ現住所ハ第二条履歴書ト共ニ届出ヘシ
一死亡之節
但遺族又ハ親戚ヨリ其管轄庁ヲ経テ届出ヘシ

明治十一年十一月　太政官賞勲局

〆

小石川区小石川水道町卅五番地
華族　正四位松平茂昭
養父　正二位松平慶永

右慶永本日依召参内候処、被叙勲二等、旭日重光章拝受致候、此段御届申上候也

明治十四年七月十六日　右　正四位松平茂昭

小石川区長加藤治幹殿

〆

○勲章佩用式

第一章　内国勲章佩帯ノ心得

第一款　勲章及従軍記章ハ文官大小礼服・武官正服・軍服ヲ装セシ時佩フヘシ、平服ニハ佩フヘカラス、平服ニハ略綬ヲ左襟見返ノ釦穴ニ掛ケ其表トス

但小礼服ニ於テハ時宜ニ依リ勲章ヲ佩ヒス、略綬ヲ以テ其表トスルモ妨ナシ

第二款　勲一等旭日大綬章ニ限リ旭日重光章ト共ニ両箇ヲ規則トス、譬ハ勲三等旭日中綬章ヲ佩ルモノ勲二等ニ叙シ旭日重光章ヲ賜フ時ハ、嘗テ佩ル所ノ三等勲章ヲ止メ、二等勲章ノミ佩ル

カ如シ

第三款　勲一等旭日大綬章ハ幅広ノ綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ斜ニ佩ヒ、上衣ノ左肋ニ重光章ヲ佩ルヲ例トス、小礼服・軍服ニ於テハ時宜ニヨリ大綬章ヲ佩ヒス、之ニ属スル重光章ヲ左肋ノ辺ニ佩ルヲ例トス

第四款　勲二等旭日重光章ハ左肋ノ辺ニ佩フヘシ

第五款　勲三等旭日中綬章ハ綬ヲ領ニ繞ラシ、喉下ニ佩フヘシ

第六款　勲四等旭日小綬章以下及従単記章ハ左肋ノ辺ニ左ニ列シ佩フヘシ

第二章　外国勲章ヲ併帯スルノ心得

第一款　他国ノ大綬章（仏国ノ「カランク」「ア」ノ類）ヲ我勲一等旭日大綬章ト共ニ佩ルトキハ、他国ノ大綬章ハ佩ヒズ、之ニ属スル無綬章（仏語「エトワール」英語「スタール」）ノミ我旭日大綬章ニ属スル重光ノ位置ノ下ニ佩フヘシ

第二款　他国ノ単用無綬章（仏国ノ「カラントフヒシエー」「ヒシエー」ノ類）ヲ我勲二等旭日重光章ノ位置ノ下ニ佩フヘシ

第三款　他国ノ頸ニ懸ル章（仏国ノ「コンマントール」ノ類）我勲三等旭日中綬章ノ位置ノ下ニ佩フベシ

第四款　他国肋ニ佩ル章（仏国ノ「オフヒシエー」「シュウアリエー」ノ類）ヲ我勲四等旭日小綬章以下ノ勲章ト共ニ佩ルトキハ、我勲章ノ次ニ左ニ列シ佩フヘシ

太政官賞勲局

一七月廿日正二位様暑中ニ付天機御伺、皇后宮・青山御所江も同断ニ付御参上、両大臣・宮内卿江も御勤被為在候

一九条道孝殿ゟ左之御廻達有之

近日御巡幸ニ付御留守中麝香間詰心得宮内卿へ伺候処、昨年之通ニ而可然旨被示候間、如別紙両皇后宮御機嫌伺日割取調申候、此段申入候、賢慮有之候ハヽ御示教被下度候也

追而中山・嵯峨両君ハ御用ニ而相除キ候事

○御同列御伺日割略之

一七月廿二日

以愚翰申入候、炎暑之節愈御安重珍重存候、然ハ今度北陸道鉄道布設一件之儀ニ付而ハ、御旧主人利恒様にも御発起ニ候ヘハ定而御承知とハ存候得共、兼而御承知之通り越前国ハ運送之便利不宜、起業殖産之如キモ運輸ノ開閉ニ止リ、況ヤ時運機会之先後ニ依り得失も亦大なり、故ニ拙者乍微力も旧領人民ノ為メ袖手傍観スルニ忍ビス、発起人之一部分に加はり、応分之尽力候積りニ候、巨万之資金を要するに、加越能三ケ国ハ扨置、於越前ハ実ニ容易之事ニ無之、募集甚タ難き事存候、就而者先生兼而御旧藩以来国益ノ為御熟心有之事ニ曾感服致候、今般布設之挙も定而御奮発御賛成ハ必然と信認候得とも、越前国人民之

有益者勿論、一家上ニ於テも永世不動産同様之大事業ニ候得者、先生ニも御旧藩士族及御旧領人民等江も御勧奨筋充分之御尽力御坐候様殊更願度、尚委細之事情ハ御代理小野氏より御聞取、万端御賢慮御賛成希入候、并炎熱之候、御健安御厭可被成候也

明治十四年七月廿二日　　松平正二位

慶あ

内山先生

一七月廿四日午後四時本多副元以下旧福井藩士十余名を招き、更に在東京福井人懇親会開設の件を協議せらる、来会者一同御同意を表し、一年中四季一回ツヽ開設然るへきに決す、招きに与りし人々左の如し

本多副元　由利公正　村田氏寿　堤　正誼
田辺良顕　佐々木長淳　加藤　斌　水野行敏
長谷部仲彦　伊藤　輔　能勢久成　渡辺　弘
橋本綱常　武田正規　鈴木準道

一七月廿五日例月の天機伺として参内せらる

一会館より左之通

各族長
各管長

別紙第百八十五号之通宮内卿ゟ被達候条、此旨該族管中可致通知、此段相達候也

十四年七月廿六日　　副督部長東久世通禧

追而奉送華族者午前第七時礼服着用学習院へ集会可致、奉送之儀者当局職員指出指揮可致候事

〆

来ル三十日御発輦ニ付華族惣代壱員礼服着用午前六時三十分皇居江参上、且千住駅ニ而奉送可有之、自余之華族者当日御道筋便宜之処ニ而奉送可有之、且当日ゟ三日間ニ皇居并青山御所へ参上恐悦可申上、此段相達候也

宮内卿徳大寺実則

〆

一七月廿七日細川蓮性院様本日二十年祭ニ付、於品川東海寺御祭儀御執行、依而正二位様・御簾中様御同車御参詣、御供物等被為在

正二位様御伯母、御簾中様御祖母之御続なり

一

来ル卅日御発輦ニ付、礼服着用午前六時三十分皇居江参上、且千住駅迄奉送可有之、此段相達候也

十四年七月廿七日　　宮内卿徳大寺実則

追而次第書御廻し申入候、皇居ゟ千住迄奉送候節馬車用意可有

之、此段申添候也

〆

仮皇居ゟ左へ御堀端通四ツ谷御門を入り代官町通竹橋御門を出、文部省前通一ツ橋御門ヲ出、右江御堀端通り神田橋御門外（右側美土代町）（左側錦町）右江小川町左江淡路町通万代橋を渡り、右江御成街道上野広小路ゟ同下寺町通り坂本町通り三ノ輪町ヲ渡り、右江折廻り千住駅江御順路

山形・秋田両県・北海道御巡幸御発車次第

一当日午前八時御発輦之事

一本日午前六時卅分ゟ親王・大臣・参議以下勅任官・麝香間祗候及各庁奏任官総代（一員宛）并華族惣代（一員）等参朝、自余ノ奏任官并ニ華族ハ、御道筋便宜之処ニ而奉送之事

但当日ゟ三日之間皇后宮江恐悦可申上、且青山御所江も同様之事

一便殿出御供奉并奉送諸員謁見、畢而御祝酒を賜フ

一御発車鹵簿第一公式

一皇太后宮・皇后宮御奉送之事

一親王・大臣・参議以下勅任官・麝香間祗候及各庁奏任官総代并華族惣代等千住駅迄奉送之事

一東京府知事管内供奉之事

一海陸軍之奉送例規ノ如シ

一路次巡査警備之事

一千住駅江着御

一供奉奏任官以上両皇后宮へ拝謁

一右畢而午餐を献す

一同所御発輦

一皇太后宮・皇后宮行在所御門内便宜ノ場所ニ於て御奉送、親王・大臣・参議以下同門外ニ而奉送ノ事

〆

今般皇居官門新築落成ニ付明廿八日ゟ同門通行相成度、正門位置変換ニ付同日ゟ同門通行指留、当分官門ヲ以テ兼用候条、此段相達候也

十四年七月廿七日　　宮内卿徳大寺実則

別紙之通宮内卿ヨリ被達候ニ付、此旨該族管中江可致通知、此段相達候也

十四年七月廿九日　　副督部長東久世通禧

一七月三十日今朝聖上御巡幸御発輦ニ付午前五時卅分正二位様御出門、御馬車小礼服（御略装）御参内、御祝酒御戴キ、午前七時卅分於小御所代、諸省卿・勅任官・麝香間祗候・奏任官惣代・華族惣代聖上臨御謁見、畢而午前第八時三十分御発輦、奉送之大臣・参議・省卿・勅任官・麝香間詰・奏任官等供奉、千住宿行在所江御着輦、勅任官・麝香間詰・奏任官ハ（行在所脇貸坐敷ニ休息）弁当賜り午後第一時当駅御発輦、佐野屋前ニ而御奉送、第二時過御帰邸相成候（御同列ニ而壬生基

修殿御依頼ヲ以御同車被遊候正四位様ニハ学習院前へ被為入、御奉送被遊候

一七月三十一日午前八時出門参内せらる、昨卅日御巡幸御発輦ニ付参賀せられしなり

一八月三日

今三日午後二時（ママ）三十分権典侍千種任子殿分娩皇女御降誕被遊候条、此段相達候也

十四年八月三日　宮内卿徳大寺実則代理　宮内少輔山岡鉄太郎

一八月四日前記皇女御降誕ニ付正二位様午前九時御出門、通常御礼服ニ而御参内、宮内省へ御名刺御通し、書記官迄御慶詞被仰上、皇后宮御同前、青山御所へ御参上御同前、御台所江御参上御内謁見御願之処、御都合有之他日可被仰付との御義嵯峨殿被仰聞ニ付、御退出相成候

一

各宗族長
各　管長

別紙之通宮内少輔ゟ被達候条、此旨該族管中江可致通知、此段相達候也

副督部長東久世通禧

追而至急ニ付参賀之義ハ各家へ直ニ相達候事

副督部長東久世通禧

今三日午後四時三十分皇女御降誕被遊候ニ付、別紙之通御達ニ相成候条、此旨在京華族之輩江可相達候事

明治十四年八月三日　宮内卿代理　宮内少輔山岡鉄太郎

今三日午後四時三十分権典侍千種任子分娩、皇女御降誕被遊候条、此旨布告候事

明治十四年八月三日　太政大臣三条実美

官省院使府東京府

今三日午後四時卅分皇女御降誕被遊候ニ付、在京之奏任官以上・麝香間及華族之輩本日より三日之内宮内省江参賀可致、此旨相達候事

明治十四年八月三日　太政大臣三条実美

一八月五日例月の天機伺として参内せらる

一八月六日松平直致殿より左之御届書江御調印御依頼ニ寄、御承諾御調印相成候

縁組御届

私大叔母
済
嘉永四年亥八月　生

右今般従五位細川行真妻ニ差遣シ結婚相整候間、宗族・親族連

署ヲ以此段御届仕候也

明治十四年八月六日　第二部華族　従四位松平直致　印

同　宗族　正二位松平慶永　印

同　親族　従五位松平直静　印

宮内卿徳大寺実則殿代理
宮内少輔山岡鉄太郎殿

一

各宗族長
各　管長

出兵之儀ニ付陸軍中佐児島益謙ヨリ別紙之通照会有之候ニ付、右書類儲蔵之向ハ書目取調、各族長ニ於テ取纏メ、本月中当局へ可差出候、此旨該族管中江可致通知、此段相達候也

但シ儲蔵無之向ハ其趣可申出候事

十四年八月　副督部長東久世通禧

参謀本部ニ於テ日本兵法集要編纂ニ付、東京図書館・浅草文庫其外各府県人民私蔵之書籍等追々蒐集ニ及候得共、未タ書数充分ナラサルニ付、華族諸家所有之兵書類、写本・版木ニ拘ラス其書目取調当省江報告相成候様致度、必要ト見込候分ハ借用写取度候間、右主任官より直ニ御引合ニ及ヒ可申義も可有之、是亦併せて御通達之儀御取斗相成度、此段及御照会候也

明治十四年七月廿八日　陸軍歩兵中佐児島益謙

右八月五日午後到来、御一族江御布告

兵書儲蔵有之向書目御取調、族長迄来ル廿八日迄ニ必御申出可有之候事、御儲蔵無之御方右同断之事、此達書ニ付若御不審之儀も候ハヽ、従各家直接ニ部長局江御問合有之度候也

一

来ル九日皇女御命名式ニ付御祭典被為行、御祝酒下賜候条、通常礼服着用午前十時参内可有之、此段相達候也

明治十四年八月六日　宮内卿代理　宮内少輔山岡鉄太郎

一八月九日本日皇女御命名式ニ付午前九時御礼服御馬車御参内、宮内省江御慶詞被仰上、皇女御命名左之通宮内省書記官より御示ニ相成、御拝観

韶子（アキコ）　奉書横三ツ折
滋宮（シゲミヤ）

畢而十時過賢所江勅任官相済麝香間詰御拝、畢而祝酒御酒饌御頂戴、宮内省へ御出頭御礼被仰上、御退出掛青山御所江御歓被仰上、御産所同断御帰邸相成候

両公御代理　武田正規

右東北鉄道事件ニ付福井表江被遣、本日出立午后六時横浜発名古屋丸へ乗込

但シ衆庶へ御告諭之御書面ヲ携帯、前ニ記ス

一滋宮御命名式ニ付麝香間御一統ゟ御肴御献上ニ相成、御姓名目録

近衛忠熙卿より宮内省書記官江御演達相成候

秋田　豊

右過般来御慰労御呼寄ニ相成居候処、今般武田正規御用ニ寄福井表江被遣候ニ付、同伴帰国被仰付候

武田正規江

一金拾円　御手許ゟ
一同百円　為御手当

右者今般御用ニ寄福井表江被遣候ニ付被下之

一八月十日今朝武田正規・秋田豊福井表へ出発ニ付、正二位様天徳寺御参詣之御序ヲ以新橋停車場迄被為入、御分袂被為在候正規新橋ゟ午前十時四分汽車ニ駕シ横浜港午前六時出帆之名護丸ニ投シ出発候事

一八月十二日海福雪より村田氏寿迄鉄道事件ニ付書面雪東京府吏員

前略将又先日府庁江御指出相成候小石川殿初北陸道鉄道布設之御願書ハ当日之翌日者休暇ニ相成、其翌日者知事不参ニ而其筋江進達延引ニ相成申候、即今十二日農商務省江工部省両名ニ而差出方手続済ニ御座候、此段為念一応申上置候云々

八月十二日

海福　雪

村田賢台

右氏寿携帯参上呈覧候事

一八月十三日武田正規より鈴木準道江之電報

午前九時敦賀着測量家皆集ル、今日石黒県令小浜ゟ来ルヲ待チ相談ノ積、委細郵便

一八月十四日今朝鈴木準道西本願寺別院江参向、鉄道引請証文之義ニ付及懸合候事

一八月十七日松平直静殿御長女於辰殿先般来御病気之処、追々御疲労御加はり御養生不相叶、今午前三時五十分御卒去相成候条、為御知有之、依之正二位様ゟ為御悔使沢木禄平御指出、御香奠金七拾銭・蒸菓子壱折右被進ニ相成候、正二位様まて左之通御届書

私長女辰儀本年七月三十日来病気之処、終ニ養生不相叶今午前第三時死去仕候ニ付、定式之忌服相請可申之処七歳未満ニ付三日遠慮仕候段、本日宮内卿代理山岡鉄太郎殿へ宛及御届候、依之此段御通知仕置候也

明治十四年八月十七日

松平直静

族長松平慶永殿

一昨十六日鈴木重嶺・宮重更休・阿久沢久阿・近藤義立出頭、徳川令典録編集方竣功之趣申達、桐箱入ニ而指出候

一八月十八日御家扶鈴木準道より相伺候ハ、是迄御方々様御誕生日ニ者奥表・家丁・家婢ニ至ル迄赤ノ御飯・煮肴御祝トシテ被下候処、以来ハ右御廉御代料ニ而金拾銭宛被下置候而ハ如何相伺候処、

御許可御指令ニ相成候

一福井表武田正規より之電報、有馬道純殿・本多副元殿委員早速出福、鉄道会議集会可有之周旋候様申越候

一八月十九日本日御簾中様御誕生日ニ付、為御祝奥表へ金拾銭、家丁・家婢江金七銭ツヽ被下ニ相成候但シ御目録頂戴、今度ヲ始トシ以後御成規ト相成候事

一八月廿日照徳院様御正忌ニ付、正二位様フロックコート御着用午前九時御出門ニ而、芝増上寺御霊屋・御廟共御参拝、御花壱筒被供ニ相成候

一八月廿二日今般徳川令典録編纂竣功ニ付、伊達宗城卿・池田茂政卿御来臨、御三方御揃宮重更休陪坐、右制本御点検相成候、御散席前御飯被進之、更休御相伴被命候、該竣功ニ付御三家被仰合宮重始へ左之通御取扱相成候

一金弐拾円　宮重更休
一金拾弐円　阿久沢久阿
一金五円　鈴木重嶺
一金五円　近藤義立
〆四拾弐円御三家御割合ニ而御差出相成候、別段宮重御呼出ニ而翌廿三日御渡ニ相成候

一八月廿六日山室神社江左之通御寄附ニ相成、正二位様御同盟被為在候山室山神社ハ本居宣長ヲ祭ルノ祠宇ナリ

一金壱円弐拾五銭　中山忠能殿
一金壱円五拾銭　近衛忠熙殿
一金壱円五拾銭　久我建通殿
一金壱円　広幡忠礼殿
一金壱円　長谷信篤殿
一金壱円　壬生基修殿
一金壱円　九条道孝殿
御　家
伊達宗城殿
毛利元徳殿
池田茂政殿
松浦　詮殿
津軽承昭殿
徳川慶勝殿
亀井茲監殿

一金三拾円

〆九位御一統三円三拾三銭三四三

〆金三拾七円弐拾五銭

記

一金三拾七円弐拾五銭

右者山室山神社改造資金之内江御寄送被成下、正ニ拝受候也

明治十四年八月廿六日　主唱者惣代　本居豊穎

麝香間祗候御方々之内、中山従一位殿御始十五名

諸君閣下

追而本紙御受書可差出候也

一近衛忠熙殿より左之御廻章

去ル九日滋宮御命名式ニ付献上鮮鯛壱折之代、別紙之通申越候間、御割合、来九月十日迄ニ当家へ御差出被下度候也

十四年八月廿四日

一金拾七円五拾銭　大鮮鯛壱折

一金壱円弐拾壱銭　同台　壱

合計拾八円七拾壱銭

此弐拾壱割御壱人前八拾九銭壱厘ツヽ

一八月廿九日部長局江勢・江・濃三ケ国沿道旧領主方、副督部長東久世通禧殿ヨリ呼立ニ相成、今度東北鉄道会社創立、既ニ両越・加・濃（能）四ケ国旧領主発起人より出願ニ及ヒ候、則願書中ニ江州長浜より勢州四日市江線路布設之願意も有之、然ラハ各位旧領地も有之義ニ候ハヽ、東北鉄道会社発起人美挙ヲ賛成し、同社之発起人を補助し応分之尽力有らん事を御諭達有之候趣、前田家之家扶北川亥之作ゟ申来候事

但前件之儀者前田家・当家ゟ副督部長江諭達内願せし故なり

勢州地方旧領主（朱書、以下同）「元高三拾弐万三千石余」

津	「元高五万三千石」	藤堂高潔
久居	「元高」	藤堂高義
桑名	「元高六万石」	松平定教
亀山	「元高弐万石」	石川成徳
長島	「元高壱万五千石」	増山正同
神戸	「元高壱万千石」	本多忠貫
菰野		土方雄志

江州地方旧領主（朱書、以下同）「元高弐拾万石」

彦根	「元高六万石」	井伊直憲
膳所	「元高弐万石余」	本多康穣
水口（大溝）	「元高壱万七千石」	分部先謙
仁正寺	「元高壱万三千石」	市橋長義
宮川	「元高壱万三千石余」	堀田正養
山上		稲垣太郎
三上		遠藤胤成
朽木	「元高弐万五千石」	朽木綱鑑
水口		加藤明実

濃州地方旧領主（朱書、以下同）「元高十万石」

大垣	「元高四万八千石」	戸田氏共
八幡	「元高三万三千石余」	青山幸宣
加納		永井尚服

高須　「元高三万石」　松平義生
岩村　「元高三万石」　松平乗命
苗木　「元高壱万弐千石」　遠山友悌
大垣新田　戸田氏良
高富　「元高壱万石」　本庄久米
今尾　「元高壱万石」　竹腰正旧

右之面々本人或者令扶之内出頭有之候

十四年八月廿九日

一九月一日

梨本宮過日来御病気之処終ニ御養生不被為叶、本日午後二時卅分薨去被遊候旨、同宮御附ゟ電報有之候間、此段相達候也

十四年九月一日　宮内卿徳大寺実則代理　宮内少輔山岡鉄太郎

麝香間御連名

一昨三十一日明宮御誕日ニ付正二位様御参賀被遊筈之処、御下瀉ニ付御断相成候

一九月二日本居豊穎ゟ山室山神社寄附金之受取書差出シ、夫々江御送附相成候　九条様・徳川様・御家・伊達様・池田様・亀井様・松浦様・津軽様〆壱枚　長谷様・壬生様・久我様・広幡様・中山様・津軽様　壱枚宛

証

一金三拾円

右者山室山神社改造資金ノ内へ御寄附ニ相成、正ニ謹受候也

明治十四年八月　主唱者

本居豊穎
本居健亭
平田胤雄

一九月三日永頼命五十日御祭典御移霊祭御執行、杉浦勝雅・今村今奉行

金八円　奉書紬壱反　杉浦勝雅
金七円　曬　壱反　今村　今

右御五十日迄御祭典御依頼ニ付、為御謝義御贈附之

○五十日御祭典ニ付表へ鰻飯、奥江拾五銭ツヽ、右為御供養被下ニ相成候

一九月五日九条殿より御廻章

前略此間御命御座候御巡幸中御機嫌伺状、以御両名卿江申入置候、尤在東京同列一同ゟ伺候旨申入候、此段申上置候也

九月四日　卿ハ徳大寺宮内卿なり

九条殿閣下　忠能

追而同列御面会同席も御坐候ハヽ御示命希上候也

前略陳者中山公ゟ文通御坐候間、為御心得及御通知候也

十四年九月五日　九条道孝

麝香間宛

一同日伊藤参議より、鉄道事件ニ付村田氏寿江面会致度趣申越候ニ付、出会致候

一九月六日

帰京御届

私儀

先般願済之上、京都府下西京泉涌寺江参拝、夫ヨリ兵庫県下摂州有馬温泉江罷越候処、昨五日帰京仕候、此段御届仕候也

明治十四年九月六日　第二部華族　従五位徳川達孝

後見　第二部華族　正二位松平慶永

宮内卿徳大寺実則殿代理　宮内少輔山岡鉄太郎殿

帰京御届

先般私儀願済之上、京都府下西京泉涌寺江参拝、夫ゟ兵庫県下摂州有馬温泉へ罷越候処、昨五日帰京仕候、此段及御届候也

明治十四年九月六日　芝三田綱町壱番地華族　従五位徳川達孝

後見　華族　正二位松平慶永

東京府芝区長奥平昌邁殿

一二品勲一等守修親王（ナガ）昨日午後二時三十分薨去ニ付、三日之間哥舞音曲等令停止候旨、布告候事

但東京府下ハ本日ヨリ、其他之地方者到達ノ日ヨリ算スヘキ事

〆

一九月十日

今鴻来書中発起人者弐百株以上ノモノトシ、夫ゟ未満之者ハ発起人たり共除名すへしとの問題福井表ニ於テ決議セシ由、当地有馬・小笠原両家へハ其委員より申越候趣承候、然ルニ有馬ニ而者此上之出金難成ニ付而ハ、発起人之除名ヲ無之（本ノマヽ）よし、伊東伯也も夫是心配之趣準道江内話候、小笠原・本多副元も大同小異之由、故ニ不取敢準道心付之廉昨日以郵便申送候、其後委員村田初メ申談方為致候処、旧領主発起人者従前之儘可然と各員申出候、却説今般加納（能）越旧藩主発起之原因ハ、何も承知之通り出金之多少ニ不関、以旧誼率先シ奨励候ハヽ、旧領士民之振起も一段可然との事ニ有之、已ニ七月六日於当家集会之節も、此精神ヲ以千坂県令・多賀少書記官を始、寺西其外之人江も、従慶永於其席旧藩主ハ出金之多寡ヲ不論、各旧領臣民ヲ勧奨シ、旧領之運搬ヲ便利にして、各富有を永世ニ保有せしむる之義務也と明言せり、其上創立願書にも各姓名ヲ署シ、実印ヲ鈐せり、今ヤ株数之為ニ生紛紜候而者、右三家ノミナラス其各領之臣民之気配ニ関係シ、越前全国ニ大ナル影響ヲ生シ、慶永明言属水泡候哉ニ被相考候間、旧藩主発起人ハ是迄之通据置、五千円以

上出金之者へハ、発起人同様之権利を有スル様ニ致し可然と愚考候、尚又篤与了解之上協議有之度希望候也

明治十四年九月十日　　松平慶永

武田正規殿

千本久信殿

尚々中川・萩原等江も此旨通知可有之候也

一九月十四日午前二時比ゟ雨及雷数発、追々南風烈敷次第ニ暴風ト相成、御邸内少々ツヽ損所有之、御館入町人何れも御様子伺御手伝出頭致候、御小屋建仁寺垣各処倒れ、御祠堂御鳥居覆り候尤兼而腐朽候故なり御長屋も壱棟を倒し候、右暴風ニ付正二位様午後二時御参内、皇居宮御機嫌御伺、青山御所江同断、皇太后宮御機嫌御伺相成候、前記御手伝罷出候者江御酒被下ニ相成候

一九月十七日御近例之通御一族様被仰合、上野東照宮江御参拝、神酒御頂戴、一旦御休息事務所ニ於テ御召替広小路松源楼ニ於テ御懇会御開き、令扶従も扈随、御酒飯御薦メ第十時御帰邸、本会御幹事松平直方様御順ニ而御周旋相成候

一九月十八日金沢表武田正規より之電報相達、鉄道事件集会之処、彼地出立、明日福井江帰着之趣申越候

一左之通御渡ニ相成候

今般鉄道会議之為足下金沢表江拙者委員之名義ニ而御出張相成御苦労存候、就而鉄道一条ハ万般武田正規へ御相談之上御発議有之度候也

明治十四年九月　　松平慶永

中川祐順殿

一同日鉄道事件於金沢表之集議不熟ニ付、福井委員之面々彼地引払帰福候趣、武田正規以書中申上相成候

一当府東北鉄道会社仮事務所、南鍋町壱丁目六番地橋本宅江移転ニ相成候、当御邸ゟハ鈴木準道・長谷川皎出張候事

一九月廿四日鉄道事件金沢会議不調之趣ニ付、為聞調鈴木準道前田家御家扶北川亥之作迄御遣し相成候処、同人云ク電報ハ相達候得共、事状未詳旨申出候事

一九月廿五日武田正規より去ル十七日発書面ヲ以、鈴木準道迄鉄道事件金沢滞在中之日記景況申越之、大野委員岡三弥ゟも同藩小野立誠方江同況申越、即準道迄廻送、右辺ニ付準道儀村田氏寿方へ被遣、御相談有之候

一会館より左之通

各宗族長
各　管長

拙者儀督部長旅行中局務代理候処、今般御用ニ付京都江旅行候候ニ付、留守中第三部長五辻安仲右代理候条、此旨該族管中江通知可致、此段相達候也

十四年九月廿四日　　副督部長東久世通禧

一九月廿七日酒井忠篤殿御家扶ゟ
忠篤殿山形県鶴ケ岡江御寄留之処、尚又本月廿六日ゟ十五年二月廿二日迄日数百五十日間同所へ寄留、願之通指令、鐐姫殿発京日限ハ十一月十一日治定候条、御通知相成候

一九月廿八日前田利嗣殿御家扶北川亥之作参邸、鉄道事件金沢景況等縷陳、鈴木準道応接

一九月廿九日本日福井より電報、武田正規ゟ本日晩正規及千本久信・中川祐順・岡三弥（土井殿委員）出立上京候旨申来候事

一十月三日左之通御達
一品淑子内親王久々御違例之処御養生不被為叶、本日午前七時十七分薨去被遊候旨、御附ゟ電報有之候間、此段相達候也（淑子内親王ハ桂宮ノ御事）

宮内省

十四年十月三日
麝香間御同列宛

一本日午前一時より於部長局臨時族長会有之、第三時相済、督部長岩倉具視殿代理五辻安仲殿演達之

各宗族長
各　管長

宗族長職掌則例附相談人心得則例及談会則例ヲ廃シ、更ニ宗族長・管長・幹事職務条例及会議規則等別冊之通相定候条、此段相達候也

十四年十月三日　　督部長代理　第三部長五辻安仲

〆

今三日淑子内親王薨去被遊候ニ付、為天機伺本日ゟ三日之内当省江参上可有之、此段相達候也

十四年十月三日　　宮内卿徳大寺実則代理　宮内少輔山岡鉄太郎

御同列宛

〆

一品淑子内親王今三日午前一時薨去被遊候条、此旨布告候事
但シ東京府下ハ本日ゟ、其他之地方ハ布告到達之日より三日間、歌舞音曲等令停止候、尤京都府下ハ御葬送当日迄タルヘキ事

明治十四年十月三日　　太政大臣三条実美

一部長局ゟ端書ヲ以

今三日一品淑子内親王薨去被遊候ニ付、有位華族之面々為伺天機、本日ゟ三日之間宮内省へ参上候様被達候ニ付、此段相達候也

十四年十月三日　　督部長代理　第三部長五辻安仲

追而其族中江ハ直ニ通知候事

松平茂昭殿

松平慶永殿

一十月五日正二位様午前九時御出門、一品淑子内親王薨去ニ付天機為御伺御参内、同断ニ付青山御所へも御参上被遊候

一午後一時御一族令扶御呼寄ニ而、御一族候補議員之儀ニ付御演達有之

一十月六日本日武田正規・千本久信・中川祐順鉄道事件ニ付委員福井表ゟ着、御酒肴賜之

一十月七日本日橋本綱常兄左内弐拾三回忌ニ付、綱常ゟ康荘様御臨席願申上、午後四時過御出門、御臨座被遊候

一

各族管長

副督部長東久世通禧御用旅行中、第三部長五辻安仲局務代理候条、此旨該族管中通知可致、此段相達候也

十四年十月七日　　督部長岩倉具視

一十月九日鉄道事件ニ付千本久信・中川祐順・村田氏寿・加藤斌・佐々木長淳・鈴木準道等会議有之

一左之通御達有之

来ル十一日還幸ニ付千住駅ニ於テ奉迎、皇居迄供奉可有之筈之処、場所狭隘ニ付午後一時過通常礼服着用皇居江参上、於御門外奉迎可有之、此段相達候也

十四年十月八日　　宮内少輔山岡鉄太郎

御同列宛

追而当日次第書及御廻候也

〆

来ル十一日還幸ニ付、為奉迎同日午後一時礼服着用学習院江集合可致、奉迎場所之義ハ当局職員差出指揮可致、且当日ゟ三ケ日之内為恐悦皇居并青山御所へ参上可致、此段相達候也

十四年十月八日　　督部長岩倉具視

松平茂昭殿
松平慶永殿

一十月十日

従五位松平直方
従五位松平康民

右一族公撰投票候補議員撰挙候、此段御届申入候也

明治十四年十月十日　廿六類族長正二位松平慶永

部長局第三課御中

廿六類幹事従五位松平直哉

右之通御座候、此段申入候也

明治十四年十月十日　廿六類族長正二位松平慶永

部長局第三課御中

右十月十日部長局迄御差出ニ相成候

候補議員公撰投票

八枚	松平康民殿
七枚	松平直方殿
六枚	松平直静殿
二枚	松平直致殿
壱枚	松平直克殿

開票候処本文之通ニ御座候、多数ヲ以相決、康民殿・直方殿得票ニ付、別段御存慮も無之ト存候故、十日限り之事故明日部長局第三課江届書差出候、此段及御通知候也

明治十四年十月九日　族長松平慶永

御有位御一族御宛

直方殿・康民殿江ハ別段御通知ニ相成候

右御一族御有位之方江御通知相成候

候補議員公撰投票

前同様

開票候処本文之通無相違候、多数ヲ以相決御得票ニ付、乍御苦労御担任被下度候、明十日部長局江相届候、此段及御通知候事

明治十四年十月九日　廿六類族長松平慶永

松平康民殿

一右同様松平直方殿江御申通相成候

〆

一金参千円

内
金千円　今般越前国坂井郡四ツ柳村御持高御払代金

同弐千円　第九十二銀行へ金五千円御預金之内弐千円今度引上ケ御預替之積、跡三千円ハ従前之通九十二銀行江御預ケ之事

右者兼而粟ケ崎木谷藤十郎・島崎徳平両家御因ミノ為御預金願出候ニ付、近例之通古金抵当之上、年壱割之利分ニ而御預相成候哉

右之伺ニ相成候処、十月九日伺済ニ相成

一十月十一日

聖上還幸ニ付午後十二時御出門、為奉迎御参内被遊候

但シ御衣体フロックコート高帽

八景之間省卿・勅任官・麝香間詰・各庁奏任官代・華族惣代打込御休息所と相成候事、二時頃皇居官門外江省卿・勅任官・麝香間祇候・華族惣代・宮内省御用懸・宮中祇候之面々奉迎罷出候事、正門江御馬車入御ハ凡二時四十五分なり、於御学問所省卿始華族惣代壱人宛謁見新年朝拝式ノ如シ畢而御祝酒御拝戴、宮内省出張宮中祇候当番へ参賀相済、元ノ御車寄退下、御馬車ニ而青山御所江御参賀、午後四時前御帰館被遊候

〆

今般皇居御車寄新規落成ニ付此段為御心得相達候也

十四年十月十日　宮内省

追而従前之御車寄之儀ハ、当分之内旧車寄御門と相唱候条、此段申添候也

〆

今般皇居正門新築落成ニ付、明十一日還幸之節ヨリ同門通行相成候様、此段相達候也

十四年十月十日　宮内省

追而正門通行之儀者従前成規之通候条、此段申添候也

〆

一本日鉄道会社事件ニ付当御邸ニ於テハ御会議有之、有馬道純殿・小笠原長育殿・本多副元殿御来集、土井利恒殿御断、小野立誠・伊藤伯也・岡三弥・和田彦六・中川祐順・千本久信・武田正規等一統議席江列ス、議席畢り晩餐御饗進相成候

一十月十二日酒井忠篤殿・同鐐姫殿本日御旧領大泉江御発程ニ付、正二位様午前十時比御出門、千住宿迄為御見送被為入、同所越前屋ニ而御休憩午餐召上り、夫〻御途中ニ而御分袂、午後二時前御帰邸被遊候、鐐姫様ハ公御姉君也

一十月十三日鉄道之事件ニ付左之通御呈章

別紙議案之通及御相談度、来ル十六日午後一時芝紅葉館江御出会有之度候也

但シ御不参之御方様ハ全権之御代理御指出被下度候也

十月十三日　本多副元

小笠原長育

松平慶永殿

松平茂昭殿

別紙

社長ヲ仮撰スルノ議

即今草創ノ際東北鉄道会社々長ヲ仮リニ選任シ、一切ノ事務ヲ

管理セシムヘキ事

但シ発起人申合内規第二条ヲ削除スヘキ事

一本日於巣鴨御別邸鉄道会議有之、村田氏寿・堤正誼・田辺良顕・千本久信・武田正規等参集

一十月十四日

本日正二位様部長局江御出頭之筈之処、御所労ニ而松平直哉様御代理御出頭相成候、明治十四年八幡祭ニ付御寄附金并源姓華族寄附金等利子受取并仕払表

一金弐拾円　御寄附金利子

一金六拾円　源姓華族寄附金利子

合八拾円

内訳

一金三拾六円四拾六銭　奏楽弐拾弐人雇費

一金拾五円四拾八銭四厘　朝夕并後朝神饌料

一金七拾五銭六厘　注連縄参拾五筋代

一金弐拾七円三拾銭　矢来竹拾三駄代

右之通ニ御座候、尤明細表并受取簿等ハ一社ニ備置候也

男山八幡宮司　梅渓通治

同会計主任　禰宜　伊知地光保

一十月

勅諭

朕祖宗二千五百有余年ノ鴻緒ヲ嗣キ、中古紐ヲ解クノ乾綱ヲ振張シ、太政ノ統一ヲ総攬シ、又夙ニ立憲ノ政体ヲ建テ、後世子孫継クヘキノ業ヲ為サンコトヲ期ス、嚮ニ明治八年ニ元老院ヲ設、十一年ニ府県会ヲ開カシム、此レ皆漸次基ヲ創メ、序ニ循テ歩ヲ進ムルノ道ニ非サルハナシ、爾有衆亦朕カ心ヲ諒トセン、顧ミルニ立国ノ体国各宜キヲ殊ニス、非常ノ事業実ニ軽挙ニ便ナラス、我祖我宗照臨シテ上ニ在リ、遺烈ヲ揚ケ、洪模ヲ弘メ、古今ヲ変通シ、断シテ之ヲ行フ責、朕カ躬ニ在リ、将ニ明治二十三年ヲ期シ、議員ヲ召シ、国会ヲ開キ、以テ朕カ初志ヲ成サントス、今在廷臣僚ニ命シ、仮スニ時日ヲ以テシ、経画ノ責ニ当ラシム、其組織権限ニ至テハ朕親ラ裁シ、時ニ及テ公布スル所アラントス、朕惟フニ人心進ムニ偏シテ時会速ナルヲ競フ、浮言相動カシ竟ニ大計ヲ遺ル、是レ宜シク今ニ及テ謨訓ヲ明徴シ以テ朝野臣氏ニ公示スヘシ、若シ仍ホ故ラニ躁急ヲ争ヒ、事変ヲ煽シ国安ヲ害スル者アラハ、処スルニ国典ヲ以テスヘシ、特ニ茲ニ言明シ爾有衆ニ諭ス

奉

勅

太政大臣三条実美

明治十四年十月十二日

副督部長東久世通禧卿演達之概意

本日部長局江各族長御呼立申候者非別儀、去十二日勅諭、右者新聞紙ニ而御承知も可有之ニ候得共、宮内卿より衆華族江相達候様との御主意ニ寄、壱葉ツヽ御渡申候事

右勅諭書にも至明治二十三年国会を開き候との御儀ニ候得共、躁急を争ひ事変を煽し国安を害する等之儀、於華族ハ最無之筈ニ候得共、篤与御主意を遵奉奉仕候様致度候事

此他演説有之由ニ候得共、別段御通知候程之事ニも無之候故略之、尤勅諭之件ニ者無之候

本日拙者不快為代理松平直哉差出候処、別紙之通之勅諭従副督部長東久世通禧被相渡演説有之由、従直哉届出候、依之及御達候也

勅諭ハ至重之事件ニ付各家御家券ハ不及申、令扶従并御邸内之者心得違無之様夫々江御達置可有之候也

明治十四年十月十四日　　族長慶永

一十月十六日正二位様午後十二時過御出門、芝公園地紅葉館江鉄道会社事件ニ付御集会、左之方々御集合、有馬道純殿・土井利恒殿・小笠原長育殿・本多副元殿・三位様（マヽ）御代理村田氏寿・前田利嗣殿御代理早川随正・前田利鬯殿同丹羽栄太郎・前田利同殿同古市三峰・間部詮道殿同大野尚興・西本願寺同西野慶悟・東本願寺同豊田政恒罷出御相談有之、畢而酒肴飯出七時前御帰邸

一十月二十日副督部長東久世通禧殿ゟ左之通

今般当局ニ而会議開設候ニ付、族管長之内或者会議之性質承り出候向も有之、右者是迄之談会ヲ改メ会議と為候事ニ而、因より同族各家財産且一身上ニ管する事ハ会議ニ不付義ニ候条、為念申入置候、此段族管中江無洩御通知有之度候也

十四年十月十九日　　副督部長東久世通禧

〆

一十月廿二日

本日鉄道会社発起人区域を広メル為ニ付、発起人集会へ左之通議案御提出相成候

明治十四年十月廿二日　　松平茂昭

東北鉄道会社発起人区域を広メル議案

株主中百株以上出金之者ハ発起人ノ権利ヲ有スル者トス

最賛成　　松平慶永

賛成　　小笠原長育

有馬道純

本多副元

土井利恒

一故細川韶邦命五年祭典御執行ニ付午十二時御簾中様御出門、品川東海寺江御参詣被遊候

御菓子料　金五拾銭
右御墓前江御備ニ相成候

一十月廿三日本日秋季御大祭御執行ニ付、御祭主正二位様・副祭主杉浦勝雅相勤之、伶人今村今・樋口健之介・佐々木源十郎出頭相勤候
一金壱円三拾銭　杉浦勝雅
一金八拾銭ツヽ　伶人三名
右御賄被下之上御取扱相成候

一十月廿四日本日中川祐順江左之通御依頼書御渡相成候
東北鉄道会社発起ニ付代理及御依頼候事
明治十四年十月廿四日　茂昭 印
慶永 印
中川祐順殿

一左之通布達
今廿四日英国両皇孫延遼館江来着被致候ニ付、明廿五日ゟ三ケ日之内同館江尋問、名刺差出置可有之、此段相達候也
十四年十月廿四日　宮内卿徳大寺実則
麝香間御同列
追而フロックコート着用可有之候也

一十月廿五日午前九時御出門天機御伺御参内、夫より延遼館ニ而英国両皇孫御尋問、御名刺受付迄御渡シ御回輦相成候但シフロックコート御着用
一
臨幸紀念祝宴之義来十一月七日相開候条、先般御通知申置候通、戸主各位同日午後一時御来館有之度、此段御族中江御通知有之度候也
追而不参之向ハ来月三日迄ニ本館江御通知有之度候也
十四年十月廿五日　華族会館
〆

一十月廿六日
乗馬射的秋季御園会不日施行候ニ付、乗馬并競馬御望之人名予而承知致置度候ニ付、左之件々御承知之上来ル十一月五日迄ニ本館江各自より御申出有之度、此段御族中江御通知有之度候也
十四年十月廿四日　華族会館
一競馬用馬匹者本館ニ而用意候事
一自馬ヲ以競馬被致度御方者、其旨御申出有之候事
一洋鞍ニ而馬場乗被致度御方者、馬匹之都合ニ寄御貸付可申事
一自馬ニ而和洋鞍馬場乗被致度御方者随意之事
一馬匹御所持之御方者可成牽携有之度候事

一有志馬場乗正午十二時限、午後一時より競馬執行之事
一尚巨細御承知被成度御方者、本館へ御出頭有之度候事
右者華族会館より到来、御一族江御布告相成候
〆
臨幸紀念祝宴之義、来ル十一月七日相開候条、同日午後一時御
御来臨有之度候也（衍）
十四年十月廿六日　館長岩倉具視
特撰幹事　松平慶永殿

一同日
明廿七日二品嘉彰親王殿下、英国皇孫アルベルトウイクトル及
チヨウチ両殿下ヲ工部大学校ニ御招請、夜会被相催候間、午後
八時三十分ヨリ令室御同伴、同所江御来会有之度、此段親王殿
下ノ命ニ依リ御案内申進候也
明治十四年十月廿六日　接伴事務委員
正二位松平慶永殿
着服ハ燕尾ノ事
封上
松平正二位殿　英国皇孫接伴事務委員
来ル廿八日英国皇孫殿下供覧ノ為、於吹上御園騎戦相催候間、
午後二時令室御同伴同処江御来観相成度、此段申進候也
十四年十月廿六日　接伴事務掛

一十月廿七日
今廿七日二品嘉彰親王殿下、英国両皇孫殿下ヲ工部大学校ニ御
招請夜会御催ニ付、荊妻同伴来会可致旨殿下ノ命ヲ被伝、謹テ
畏入候、然ルニ昨日ヨリ感冒罷在、荊妻モ同様ニ付参会難仕、
此旨殿下ニ御上申被下度候也
明治十四年十月廿七日　正二位松平慶永
英国両皇孫接伴事務委員御中

一十月廿八日正二位様午後十二時三十分御出門、吹上禁園江被為入、
英国両皇孫へ騎戦供覧ニ付御陪見、畢而立食之御饗応有之、相済
直ニ御帰邸

一十月廿九日酒井忠篤様御使、永井友範なる者御口上之趣申達候ハ、
御妹おきん様御事、今度戸沢忠実殿江御縁組被成度、為御相談被
遣、沢木禄平応接ス

一
本会入社金并ニ年醵金共受取方之義、是迄第五国立銀行ニ依托
致置候処、兎角集金纏兼候ニ付、本期分年醵金ニ限リ左ノ印鑑
之通捺印之証票ヲ以テ、本月卅一日来十一月十五日限本会職員
為請取差出候条、右日限中御不在ニ而も金員必ス御渡相成候様
致度、但シ是迄年醵金一年二期トシ一期六円宛集合成規之処、

此度ゟ一年四回トシ一回三円ツヽ集合候事ニ改定候条、此段御承知相成度、依而御通知如此ニ候也

東京地学教会幹事　赤松則良　印

明治十四年十月廿六日　同　書記　清川　寛　印

同　同　中山克己　印

松平慶永殿

一東北鉄道会社発起ニ付、代理者へ左之権限書相渡候事

東北鉄道会社創立ニ付、株主総会役員選挙迄ノ発起人代理ヲ依頼スル権限左ノ如シ

第一条

該代理者ハ発起人会議ニ参与シ、会社創立規則及ヒ定款申合規則ノ起稿并修正ヲ議シ、其他一切ノ事務ヲ負担スヘシ

第二条

該事件ハ家令ヲ以テ該代理者ニ協示シ、其代理者ハ家令ニ協議シ、或ハ至急ヲ要スル議事等ハ該代理者専決スル事モアルヘシ

第三条

該代理者ハ株主募集周旋方ヲ選ミ、直ニ依托スヘキ権アリトス

第四条

会社創立理事ニ干預スル権利アル者ハ、発起人ハ勿論該代理者ニ限ル可キモノトス

第五条

総テ該件ニ関スル経費ハ家令ニ照会シ、自費并創業費ノ区分ヲ判明シ、之カ明細書ヲ作リ月末毎ニ具状スヘシ

第六条

該代理者ノ姓名ハ、各発起人及ヒ福井・石川両県庁江予メ通シ置クヘシ

第七条

鉄道事業ニ関渉スル事柄ニ付テハ、該代理者其名を以テ発起人ニ往復照会スルノ権アルヘシ

第八条

代理者若シ病気其他ノ事故アリテ該事務ニ干預スル能ハサルトキハ、曾テ嘱爾スル人員ノ内ヲ以テ其任ニ代ラシムヘシ

明治十四年十月廿九日　松平茂昭

松平慶永

中川祐順殿

一

今般東北鉄道会社御発起御代理被命、権限御委任之条件御渡ニ相成、然ルニ該条件中代理者之員数挙而明文不相見、右ハ代理者江御委任条件之意味ニ依テ信スレハ、壱名ニ限ルヘキ御儀ト存候得共、或ハ疑団難解廉も有之ニ付為念奉伺候条、御明示被成度伏而仰候也

明治十四年十月廿九日　中川祐順　印

松平慶永公
松平茂昭公
（朱書）「書面之趣ハ代理ハ壱名ニ限候事ニ可心得事
明治十四年十一月十三日　慶永印　茂昭印」
東北鉄道会社御発起御代理被命、権限御委任之条件誓而勤勉可仕、右謹而御請申上候、以上
明治十四年十月廿九日　中川祐順　印
松平慶永殿
松平茂昭殿

一九条殿御家従より左之通申来り候
桂宮薨去ニ付御献備相成候榊壱対代左之通ニ付、御出金被下度御依頼仕候也
一榊　壱対
代金拾円
右二十二方割
御一家ゟ金四拾五銭五厘

一近衛忠熙殿より左之通御廻章ニ而御通知
明治十四年　天長節
秋菊有佳色
右御題御治定相成候、例之通御詠進被成候様御沙汰候事
十月廿九日　忠熙

一
各宗族長
各　管長
別紙第九百十五号之通宮内省ゟ被達候ニ付、此旨該族管中江通知可致、此段相達候也
追而不参之輩ハ直ニ宮内省江可届出候事
十四年十月廿九日　副督部長東久世通禧
別紙第九百十五号
来十一月三日天長節ニ付、有位華族之輩大礼服着用午前九時ゟ午後二時迄当省江参賀可致、酒饌ハ例之通其局ニ於テ下賜候条、此段相達候也
十四年十月廿八日　宮内卿徳大寺実則
〆
来ル十一月三日天長節ニ付当局ニ於テ酒饌下賜候条、勅奏任官・麝香間詰当日宮中祗候、明宮・滋宮祗候ヲ除ク外、在京有位華族同日午前第十時ヨリ正午十二時迄ニ出局可有之、此旨該族管中江通知可致、此段相達候也
追而不参之輩ハ同時酒饌受取人可指出、尤御用旅行并京都府華族ニシテ愛知県以東寄留之向ハ、翌四日正午十二時迄ニ酒饌料受取人可差出候事
副督部長東久世通禧

一十一月一日

来ル八日午前九時御出門、吹上御苑江行幸、近衛士官并ニ予テ乗馬致候華族競馬天覧被為在候ニ付、同日同族中婦女之外子弟ニ至ル迄、随意縦覧被指免候条、此段御族中江無洩御通知有之度候也

追而御苑鑑者来ル五日ゟ七日迄ニ員数御申出候ハヽ、於本館御渡シ可申、尤当日弁当御持参之事

十一月一日　　華族会館

一今夕両国亀清楼ニ於テ東北鉄道会社集会ニ付、正二位様御出席、土井利恒殿・小笠原長育殿・本多副元殿・村田氏寿・千本久信・小野立誠・武田正規・岡三弥・和田彦六・中川祐順・伊藤伯也等参集、議了酒饌ノ饗アリ

一十一月二日千本久信帰福ニ付、村田氏寿・堤正誼・田辺良顕等被為召御離盃御侑ニ相成候

一十一月三日天長節ニ付正二位様大礼服御佩章午前九時御出門御参内、正門ヨリ元御車寄御昇降、於御接待室主上臨御、皇族・大臣・参議・勅任官・麝香間祗候・各国公使来会、於御前例之通賜酒饌、欧州楽を奏シ、十二時過宴畢御退散相成候

一十一月四日別紙之通宮内卿ゟ被達旨ニ而、会館より通知

来ル八日午前九時御出門、吹上御苑江行幸、競馬天覧被為在候ニ付、華族一統拝見被差許候旨被仰出候、此旨夫々江可相達候也

十四年十一月一日　　宮内卿徳大寺実則

追而拝見ニ罷出候輩ハ弁当用意可相成候、且同日雨天ニ候ハヽ、御延引相成候、此段申添候也

但御苑出入鑑札ハ旧西丸大手御門前并半蔵御門内御苑御門之両所ニ而可相渡候、右鑑札ハ翌日当局江返納可致候事

十一月四日　　副督部長東久世通禧

一十一月五日

武田正規江

今般東北鉄道創立会社発起ニ付、福井県下越前福井表へ為相談、本月中旬発京罷越度、此段可然取斗可有之事

明治十四年十一月五日

一十一月七日本日華族会館ニ於テ臨幸紀念祝宴開張之処、正二位様昨夜来御感冒気ニ付御断御届相成候

一石黒福井県令江左之通御書通有之候

粛啓東北鉄道会社創立請願之件未タ政府允許之命ヲ不得ト雖トモ、該事業資金充全為メ、株主募集者最モ緊要タルヲ以テ、慶永等協議ノ上将ニ御管内越前地方ニ於テ着手ニ及ハントス、顧ミルニ今般発起セシ原由タルヤ、固リ該地方ノ士民ニ対シ旧故アリ、又情誼アルニ出ルナリ、然リト雖トモ該事業タル実ニ重大、資金モ亦巨額、故ニ御管内士民ノ大ニ賛成協力ヲ得テ、其成効ヲ遂ルニ非サレハ、決シテ僅ニ発起数名ノ為シ能ハサルハ言ヲ俟タサル所ナリ、爰ニ於テ即今募集ノ期ニ際シ、其方法等詳悉稟議シ且ツ明誨ヲ蒙リ、偏ニ其所置宜キヲ得ンコトヲ希望ス、茂昭等近日ヲ以テ貴県下ニ参会セントス、仍テ一書ヲ呈ス、尚ハクハ微衷御照亮特別ノ御庇護下サレ度、此段不堪懇願之至、余ハ期面罄候也

明治十四年十一月十日　　従五位本多副元
従五位小笠原長育
従五位土井利恒
従四位有馬道純
正四位松平茂昭
正二位松平慶永

福井県令石黒務殿

一

拝啓愈御安全奉賀上候、陳者東北鉄道会社株主中、百株以上ハ発起人之権利ヲ有スル義ニ付、過般御旧臣陸原氏ニ托シ御協議致置候処、未タ御回答ハ無之候得共御同意と見做シ、茂昭等正ニ近日ヲ以テ発途、旧領地ニ赴キ募集ニ着手可致目的ニ有之候、御異見も候ハヽ至急事務所迄御申越有之度、此段御通知旁申進候也

明治十四年十一月十日　　本多副元
小笠原長育
土井利恒
有馬道純
松平茂昭
松平慶永

前田利嗣殿
前田利鬯殿

一十一月八日部長局ゟ達

先般華族各家ゟ被指出候兵書類目録中、軍中人馬帳・人馬高割及ヒ兵賦輜重ニ関シ候書類一切不相見候ニ付、右書類借用致度旨、更ニ陸軍中佐児島益謙ゟ照会有之候条、所蔵之向ハ各族管長ニ於て目録取束ね、本月中ニ当局江可被指出、此旨該族管中江通知可被致、此段及御通知候也

但所蔵無之向ハ其趣可被申出候也

十四年十一月八日　　副督部長東久世通禧

松平慶永殿

追而徳川家達氏祖先将軍奉職中、軍中取用之本文之分有之候ハ、別段入用之趣照会ニ付、此段申添候也

右ニ付族長御廉ヲ以左之通御一族中へ御通示相成候

兵書御所蔵之向ハ目録取束ね、来ル廿五日迄ニ族長へ御指出可有之候事、御所蔵無之御方者来廿五日迄ニ族長へ御申出可有之候事

一十一月十二日正二位様今午後十二時過御出門、部長局江族長会ニ付御出席、議長・副議長之公撰投票御執行、畢而御宴会ト相成、幹事松平直哉殿・候補議員松平康民殿ニも御出席、各族長方へ会議定例草案壱冊・部長局会議規則壱冊ツヽ配賦ニ付御受取相成候

一左之通御達示

各宗族長
各　管長

候補議員之儀ハ族長・幹事欠席ノトキ出席可致規則ニ候得共、固ヨリ議員タルノ権ハ族長・幹事と同一ニ候間、各類各別之都合次第、毎議事列席スルヲ得ルコトニ候条、心得ノ為此段相達候事

十四年十一月十二日　副督部長東久世通禧

各宗族長

各　管長

当局会議々長副督部長次席、副議長部長次席ニ相定候間、此旨該族管中江通知可致、此段相達候也

明治十四年十一月十二日　副督部長東久世通禧

一本日議長・副議長投票左之通

当撰議長　大給　恒
当撰副議長　岩倉具定

得票右之通相決候間、族中江通知可致旨副督部長ヨリ被相達候事

一今般越前旧領主方旧領地へ被為入、鉄道創立事件御勧誘ニ付御告諭左之通

越前国公衆ニ告ルノ大意

茲ニ東北鉄道建設ノ義ハ、抑モ前田家并ニ両本願寺及余等数名ノ創意ニシテ、過般来屢ハ相集議シ該件工事ノ難易方法ノ便否・費金ノ概額・布線ノ予程等粗々之ヲ商量スルニ、実ニ一大事業ニシテ決シテ易々成シ得ヘキ者ニ非ス、然リト雖トモ普ク公衆賛成ノ力ト、政府保護ノ厚キトニ頼ラハ又敢テ為シ難キ事ニアラスト確信シ、嘗テ之レヲ福井・石川両県令へ稟議ニ及シニ、県令ニモ大ニ此挙ヲ賛成セリ、是ニ於テ余等遂ニ奮進決意、先ツ以テ一社ヲ創立センコトヲ欲シ、則仮ニ東北鉄道会社規則ヲ

草定シ去ル八月既ニ政府ヘ請願ニ及ヘリ、然リ而シテ該建設ノ旨意併セテ施設方法等ノ如キニ至リテハ過般石黒県令ノ県下公衆ヲ招集シテ演述アリシ所ニ外ナラス、切至懇悉遺ス所ナシト云ヘシ、畢竟之レ余等カ公衆ニ対シテ述ヘント欲スル所ト一意ナレハ復タ敢テ贅セス、然リト雖トモ於余等ハ啻ニ公衆ヲ勧奨誘励スルノミニ非ラス、直ニ公衆カ賛成協力ヲ得テ而シテ百折不撓与ニ共ニ堅忍以テ茲ニ従事シ偉功ヲ他日ニ奏センコトヲ期スルニ在ル耳、果シテ然ラハ余等ニ於テ旧誼アル公衆ト相共ニ上ハ皇国一大ノ便益ヲ開キ、下ハ自家永世ノ資産ヲ有シ、以テ明世無窮ノ徳沢ニ浴センコト何ノ幸福カ又之レニ過キン、嗚呼実ニ一大快事ナラスヤ、茲ニ余等相連署シテ各自旧封ノ公衆ニ報道ス、請幸ニ余等カ微衷ヲ諒シ偏ニ奮発賛成アランコトヲ

明治十四年十一月

正二位松平慶永
正四位松平茂昭
従四位有馬道純
従五位土井利恒
従五位間部詮道
従五位小笠原長育
従五位本多副元

一十一月十三日

貧民病院設立ニ付乙部哲𠮟同院維持法案ヲ呈シ、御出金之儀懇願申出候間、維持方法案第三条第一項ノ如ク金百円、尤モ慈善之件ニ付御出金相成可然哉ニ奉存候間、此段奉伺候也

明治十四年十一月十三日

（朱書）「伺之通

明治十四年十一月十三日」

一同日宮内卿ヨリ左之詔令ヲ伝ヘラル

宮内卿茲ニ皇帝・皇后両陛下ノ命ニヨリ、松平正二位閣下及令夫人・令娘、十一月十六日午後二時赤坂仮皇居御苑ノ観菊会ニ来臨アランコトヲ望ム

当日雨天ナレハ之レヲ罷ム

フロックコート着用

観菊会陪観者心得

一陪観者ハ当日赤坂仮皇居正門ヨリ入リ車寄ニテ下車、退散ノ節モ車寄ヨリ乗車正門ヨリ出ツ

一両陛下入御ノ後ハ各員退散勝手タルヘシ

一婦人ノ外各員御苑中ニ於テ日傘・鞭・杖或ハ襟巻・外套等ヲ用ユヘカラス、上着（オーバコート）ハ此限ニアラス

一婦人着服ハ褂・緋袴又ハ白襟紋付ノ事

但西洋服ハ勝手次第ノ事

右之通御到来ニ付左ノ御請書有之

謹奉対答宮内卿徳大寺実則閣下

閣下

両陛下ノ依勅命本月十六日午後第二時赤坂仮皇居御苑ノ観菊会ニ参趨スルヲ垂示セラル、謹畏謹奉ス、頓首謹言

明治十四年十一月十三日　　正二位松平慶永

宮内卿徳大寺実則閣下

一十一月十四日部長局ゟ左之通達示有之

各宗族長
各　族長

別紙第二五五号之通宮内卿ゟ被達候条、此旨該族管中へ通知可致、此段相達候也

但御苑出入鑑札ハ旧西丸大手御門前并半蔵御門内御苑御門之両所ニ而可相渡候、右鑑札者翌日当局へ返納可致、且拝観之輩者弁当用意之事

十四年十一月十四日　　副督部長東久世通禧

〆

来ル十八日午前八時三十分御出門、於吹上御苑華族之輩競馬御覧被遊候旨被仰出候間此旨夫々江可被相達候、且華族一同拝見被差許候条、此段相達候也

十四年十一月十二日　　宮内卿徳大寺実則

追而同日乗手人名取調、来ル十四日中ニ可被指出候、同日東京鎮台競馬士官も御覧被遊候筈ニ有之、雨天ニ候ハヽ御延引相成候也

〆

一華族会館ゟ左之通

来ル十八日秋季御苑乗馬会相催候、就而ハ同日天覧被遊候旨被仰出候間、同族婦女子ヲ除ク之外子弟ニ至ル迄随意御縦覧有之度候、此段御族中江御通知相成度候也

追而御苑鑑者当日大手・半蔵弐ケ所ニ而部長局ゟ御渡可申候、雨天ハ御延引候也

十一月十四日　　華族会館

松平慶永殿

一十一月十六日

御家令扶従定則之内

第四条改正之伺

一主人随行ニテ旅行シ逗留中仕賄之節ハ日当ノ半額ヲ給ス

右ハ随行ニテ旅行御逗留中ハ日当不被下規則ノ処、前条ノ通御改正ニ相成度、此段奉伺候也

但伺済ノ上当夏正二位様御供之面々モ御引直シ有之度、此段奉伺候也

明治十四年十一月十六日

（朱書）「伺之通　明治十四年十一月十六日」

一本日仮皇居御苑観菊会ニ付、正二位様午後十二時三十分御出門御参内フロックコート御着用御参内、直ニ御苑御散歩籬菊数ケ所御拝観、萩御茶屋裏ニ而各処之造菊御拝観、皇族・大臣・参議・麝香間詰御揃、二時過御歩行ニ而皇后行啓、萩御茶屋へ入御、皇上御乗馬ニ而行幸、暫時萩御茶家ニ而御休息、畢而萩御茶屋裏江皇上・皇后宮立御、皇族・大臣・参議・各国公使・同書記官謁見、外国公使者握手之礼被為行、勅任官・麝香間詰御謁見、夫ゟ立食場江皇上・皇后宮出御、拝観之方一同御立食、両陛下還御、午後三時過御退下宮内省へ御参上、御礼被仰上、御帰邸四時過ニ及候

但シ今日ハ正門ゟ御参、元御車寄ゟ御昇降

一十一月十七日本日予而通知有之学習院ニ於テ臨幸五年紀念会執行ニ付、十二時御出門ニ而御会合、院長祝詞、各教員演説、生徒唱哥、音楽等之催有之、畢而祝宴御開暢、相済午後四時前御帰邸被遊候

一十一月十八日正四位様近々福井県へ為御墓参、御暇乞トシテ午前十時御出門、御参内被遊候

一康荘様午前八時ゟ吹上禁苑へ華族競馬天覧、随意拝観特許ニ付御参上、沢木禄平・笹川章門御供罷越候

一十一月十九日

出立御届

拙者儀今般福井県下越前国足羽郡福井表へ為墓参、往復ヲ除キ日数二十一日間御暇願済、本日出立仕候ニ付、留守中松平慶永江為相心得申候、依而連署及御届候也

明治十四年十一月十九日

小石川区小石川水道町三十五番地
華族 正四位松平茂昭

同区同町 同 正二位松平慶永

小石川区長加藤治幹殿

一今朝正四位様午前八時御発邸、福井県下へ御旅行被遊、御供武田正規・山本武・中島直蔵・中川祐順随従仕候、御旧領御旗下華族方ニ而有馬道純殿・土井利恒殿・小笠原長育殿・本多副元殿御同発、正二位様・康荘様御旧領各侯為御見送横浜迄被為入、広島丸江御乗込迄御諦見、御帰途ニ及はせられ候、御前様ニハ御同馬車ニ而新橋停車場ニ而御分袂被成候、但シ横浜太田町今村方ニ而各侯御休憩、昼御餐召上り清商王暢斎罷出支那料理等調上、林佐次衛・林庄五郎出頭、諸事周旋致候、村田氏寿・田辺良顕始新橋迄御送り申上候者総計五十有余人出頭致候、有馬家伊東伯也・土井家小野立誠・加賀山乙・小笠原家岡三弥・本多家和田彦六随従同行候也

一

来明治十五年一月御歌会始甲第壱号差廻候条、夫々可相達候也

十四年十一月十五日　　宮内卿徳大寺実則

甲第壱号　河水久澄

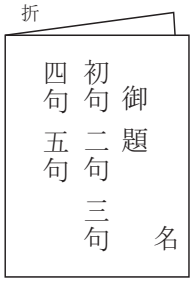
右明治十五年一月御哥会始御題ニ候条、此旨布達候事

但別紙書式ニ照準一月十日迄ニ詠進可致事

明治十四年十一月十五日　　宮内卿徳大寺実則

（朱書）「別紙」料紙、檀紙・奉書・杉原ヲ用ユヘシ

但シ遠地郵送ノ分ハ美濃紙・薄葉ノ類ヲ用ユルモ苦シカラス



裏面書式
某府県下某国某郡某町村住
華族又ハ平民士
苗字名
官位勲等アル者ハ
苗字上ニ記載スヘシ

一十一月廿一日神戸午前九時発、武田正規より鈴木準道江

正四位様福井表へ御着、電報相達ス、曰ク

コンニチ、ゴゼンハチジ、スギ、チヤク、ミナブシ、アリマ、

ドイ、オガサハラ、ホンダ、シラセ

右ニ付鈴木準道ヨリ急使ヲ以為知指出之

一十一月廿二日本日午後一時より松平直克様并御令扶大藤翼・三上雄之来邸、幹事松平直哉様ニも御列坐、直方様御退隠之義ニ付御内議有之

一十一月廿四日福井分局私報、午後五時四十分発之電報武田正規より鈴木準道迄

コンニチ、イマジヨタチ、ゴゴニジスギチヤク、ブシ、

一松平直方様御退隠御一条ニ付、御一族御令扶中沢広江・村上勝之介・乙部哲・大藤翼・三上雄之等参趨、御協議有之

一本日正子様御誕生日ニ付御髪置御祝義御執行、併而おふし着帯之御祝義も御執行相成候、正子様御産神牛天神江御参詣、御初穂金五拾銭ヲ被供、奥表一統へ御酒肴被下ニ相成候

一左之通御布達有之

今般皇居御車寄新築落成ニ付、旧御車寄之儀自今皇居車寄と相唱、皇族并臣下車寄ニ被究、旧御車寄門之儀も皇居御車寄門ト相唱候条、此段相達候也

十四年十一月十四日　　宮内卿徳大寺実則

追而昨十三年太政官第六十三号ヲ以、新年朝拝・紀元・天長節ニ限リ、勅任官・麝香間祗候ハ仮ニ御車寄ヲ以車寄ニ被宛候旨御達有之候処、本文之通皇族已下車寄被相設候上ハ右御達自然

消滅候義ニ候条、此段添而申入候也

一十一月廿八日

本月八日附ヲ以御達有之、陸軍中佐児島益謙ゟ申出ニ相成候軍中人馬帳・人馬高割及ヒ兵賦輜重ニ関スル書類差出方族中へ通示候処、一族中ニ所蔵之者無之趣申出候、此段御届申候也

明治十四年十一月廿八日　廿六類族長　松平慶永

副督部長東久世通禧殿

一十一月三十日

来ル十二月三日午前八時ゟ秋季御苑射的相催候間、同族婦女ヲ除ク外子弟ニ至迄、随意縦覧有之度、此段御族中江御通知有之度候也

追而御苑鑑者当日大手・半蔵二ケ所ニ而御渡可申候、且弁当ハ御持参相成度、尤雨天ニ候ハヽ同十日ニ延会候事

十四年十一月廿九日　華族会館

一十二月一日

福井表正四位様より去廿五日御日附御呈書、海陸無御滞去ル廿三日福井御着被為在候条被仰進、御方々様御安堵被遊候、武田正規ゟ同断鉄道事件景況委敷上申ニ相成候

一福井県令石黒務出京ニ付、安否御尋トシテ御使鈴木準道被仰付鶏卵壱箱御贈リニ相成候

一前田利同殿御養祖母宝寿院殿女使滝尾参邸、御簾中様御重之内御汁粉・お被進之、子細ハ宝寿院殿御儀者松平直方様御実方御祖母ニシテ、今般直方様御退隠御主張之件ニ付、内命ヲ含ミ罷出候也、鈴木準道接唔、黄昏ニ及候ニ付御懸合賜リ退出、宝寿院殿ハ御簾中様御伯母様ノ御続ニ而御簾中様御延見御安否御尋も被為在候

一十二月二日

来ル五日午後五時吹上滝見離宮ニ於テ晩餐下賜候条、時限前同処江参入可有之、此段相達候也、御苑鑑三枚

十四年十二月二日　宮内卿徳大寺実則

松平慶永殿

追而不参之節ハ前日迄ニ可申出候也

右ニ付直ニ御請書御差出ニ相成候

一十二月三日第一銀行支配人永田甚七死去候ニ付、右跡佐々木勇之介襲任、自今諸事御依頼之廉ヲ以御家従長谷川皎御使ニ而鶏卵壱箱御送りニ相成候

一十二月五日午後三時三十分御出門御着用フロックコート吹上御苑滝見離宮

へ御参上、午後五時過ゟ西洋料理ニ而御晩餐御拝戴、畢而宮内卿江御礼被仰上御退出、御相客ハ三条太政大臣・徳大寺宮内卿・杉宮内大輔・山岡宮内少輔・桜井宮内大書記官・中山従一位殿・九条従一位殿・近衛従一位殿・久我正二位殿・広幡正二位殿・御名・伊達従二位殿・長谷従二位殿・毛利従二位殿・亀井従三位殿・壬生従三位殿・細川従三位殿・黒田従三位殿・池田従三位殿・松浦正四位殿・津軽正四位殿

一十二月六日午後松平直哉殿・松平直方殿御来邸、正二位様御面謁、直哉殿より直方殿江過般来御退隠被仰立之件御直究相成候

一十二月七日正二位様より今朝松平直方殿御家扶大藤翼・三上雄之御呼出ニ而直方殿御退隠御一条御自反御謝罪之義被仰出旨御垂諭相成候

一十二月十日

今般退隠仕度慶永殿・直哉殿ゟ懇々説諭有之候ニ付、既往之前非を悔悟改心仕候、是迄之儀万事不平之義等者無之候、改心仕候上者、典則様御始御方々様江対シ孝道相尽シ候義者ハ勿論、家政向精々担当勉強可仕候、尤金円之儀等ハ不及申、家扶従之黜陟其外百事不相伺、且家扶始ニ相談不致処置仕候義一切不仕候、右之件々確守可仕候間、此度之義者実ニ勿卒之振舞何分恐縮仕候、因之重々御詫仕候間格別御憐愍を以御聞届被下度奉歎願候

明治十四年十二月十日　　松平直方 印

御父上様

一同十一日直方様御家扶大藤翼・三上雄之参上御面会相成候処、昨十日直方様池ノ端直克様御方江御参邸、御謝罪状御指出相成候右写入御覧候様被仰付候間、差上候旨ニ而持参候間、御熟覧之後幹事松平直哉殿江直ニ御報道ニ相成候

一十二月十二日南部信民殿より右（左）之通御申越相成候

来ル十六日上野公園内精養軒ニ於テ御懇会相願、粗酒呈仕候間午後四時何分御繰合ニ而御来光相願仕候、若御指支ニ而御不参之節者御族中ゟ御代理御指出可被下候

十二月十二日　　南部信民

松平慶永殿

一福井表武田正規江此表鈴木準道より電信ヲ以左ノ通申越之

キノフ、ケンレイヨリデンシンニテゴシヤウチトゾンズ、ココノカ、ニチニチシンブンテツドフロン、セイフケツギニハナキヨシ、ガイシヤニハギロンチウ、イサイユウビン

十二月十三日午后四時

一十二月十三日岩倉公江之御呈書伊達宗城殿御指出

抑維新以来時勢ノ変換ニヨリ万般ノ御制度御改正相成、歴朝ノ古典・旧制モ自然湮滅ノ姿ニ帰シ、後世復タ其ノ何物タルヲ知ルニ由シナク、随テ時勢ノ沿革ヲモ観察スルコト不能ニ立至リ候テハ実嘆カハシキ次第、今ニシテ夫レ是ヲ図ラスンハ後何トモ為スヘカラサル義ト聖慮ニ被為懸、嘗テ旧公卿ノ内二・三古老輩ヘ歴朝御伝来・旧制等夫々取調ノ儀被仰出、就テハ徳川氏幕府当時ノ旧例古格等其尊卑可比モノニ非スト雖トモ、三百年間ノ治績沿革亦是レ渺茫ニ付スヘキモノニ非サルヲ以テ、曩ニ閣下ヨリ慶永・宗城等江同氏旧例・古格等夫々取調ヘ可差出旨下命アリ、爾来慶永・宗城等御陪食被仰付候節モ右取調ノ儀閣下ヨリ御奏聞モ有之、辱クモ蒙勅語、慶永・宗城ニ於テモ深ク感銘、爾後茂政ニモ右二名ト同シク従事可致旨懇々下命アルニヨリ調査着手罷在候処、素々吾輩旧格等ノ事ニ於テハ別シテ疎漏、殊ニ当時ノ旧記等ハ多クハ散佚残欠殆ント其ノ拠ル所ナキニ於テオヤ、然ルニ徳川旧臣中宮重更休・阿久沢久阿・鈴木重嶺・近藤義立ナル者アリテ従来同氏古格旧例等ノ事関与シ、其筋ノ儀ニ於テハ細大トナク粗臆記致居候ニ付、一同協議ノ上此四名ニ依頼諮詢シ、且各自所蔵ノ記録等ヲ参考ニ供シ編纂始テ緒ニ就キ、茲ニ三十八閲月ニシテ漸ク功ヲ竣ヘリ、然リ而シテ右編纂ノ体タル多クハ旧記雑録ヨリ採集スルモノナレハ、奉対朝廷僭越不等ノ事モ亦不尠、恐懼慙汗ニ不堪次第ニ候得共、畢竟幕府当時ノ状景ヲ視察スルノ本旨ナレハ敢テ忌諱ヲ不憚姑ラク其成文ニ従フ、茲ニ則全三十九巻トナシ是レヲ閣下左右ヘ及進達候条、御一覧ノ上格別不都合之廉モ無之候ハヽ、献上之儀可然御取計ヒノ程奉伏冀候也、恐惶謹言

明治十四年十二月十三日　　池田茂政
　　伊達宗城
　　松平慶永

岩倉具視閣下

一

先般以家扶鈴木準道、及御照会置候貴家江対一族条約書面之件、従野津栄最早及御返答候義と存候、同氏御返答書面条約書ニ被添御回致有之度、此段申入候也

明治十四年十二月十四日　廿六類族長松平慶永 印

松平直巳殿

一十二月十四日

昨日者尊書被下謹而拝見仕候処、過日被仰付候旧県ニ而野津方江定則書存寄相尋遣候処、十一月十七日返事参り候処、私ゟ述候者兼而御存知之通不文故先方江不通ニ付、今一応遣候間返事次第書面参上仕候心得ニ御座候処、早々指出候様被仰越候間、

右之事柄者参上仕申上度候、然ル処今暁坂本町三丁目辺出火ニ而私方大取込ニ御座候間、近参上委細奉申上候、先者御請申上候也

明治十四年十二月十四日　　廿六類松平直巳

松平慶永殿

一

一翰令啓候、陳者去ル九日日本鉄道会社集会席ニ於テ友幸元老院議官氏発言ゟ議論生シタル事、則東京日々新聞之通、右ハ最早御承知ト存候、依而其筋内調之別紙類一見ニ入候石黒県令・村田・堤等書面右書類之主意ニ而ハ政府上一般之決議ト云義ニハ無之由ニ候得共、結局払下ケ一条ハ相違有之間敷候、就夫思考スル処ニ而者此説至極官民弁理法ニ而都合ハ宜哉ニ存候、併是ニ付一ノ案慮スル件ハ、九日日々新聞ノ該社ノ論点ヲ越前人民閲候ハヽ当時尽力募集上ニ大ニ関係ヲ起シ、人民も如何ナル感覚ヲ生スルモ難計甚掛念ニ存候、因而何卒精神ニ於テハ前々之如ク専ラ募集上ニ尽力有之度、左も無之して今度伝聞より自然精神屈撓候様ニ相成候而ハ、是迄之事業水泡ニ属シ可申、故ニ此際前件御含有之度候、扨発起人ヒロムル件ハ爾後前田家之見込如何、此方推考ニハ到底同論ト成候ハ難カラン、就而ハ愈同論ト不相成節ハ不得止分離スルコトヲ極意ニ致シ、今般之処ハヨイカケンニカタツケ、募集ノ目途モ付ケハ早々帰京ヲ良策トナス、当時幸ヒ石黒県令上京中是等之次第及相談候処、同案ニテ既ニ多賀書記官迄通信有之趣ニ付、夫是御勘考之上只管帰京有之度希望候、方今北風寒烈御自愛是祈候也

明治十四年十二月十四日　　慶永

茂昭殿

尚々武田・千本・青山・毛受等へも可被示候、有馬殿初五名へも相談之上此書状御示シ有之度候也

一同日

族長投票開緘之処、小生多数ニ相成恐惶之至ニ候、乍併御約束ニ而多数を得候儀故可固辞道理無之、乍不調法十五年度も引続担任可仕候間左御承知被下、何卒不相替万端御介助御輔翼奉希候也

明治十四年十二月十四日　　松平慶永

御一族御一統宛

但シ御投票略之

一十二月十五日

一雲丹五合入　五箱

右御恒例之通御献上ニ相成候

一同日

皇居正門之義是迄毎日開扉候処、来ル十五年一月ゟ平常閉扉シ、行幸・行啓其他御式日大祭而已開扉致候条、此段及御通知候也

十四年十二月十四日　　本田康穣

一同日左之通布達　　督部長岩倉具視

東京府外住居并寄留有位華族之輩、新年・紀元節・天長節賀表差出方之儀以後一般其局ヲ経差出候様可取斗、就而ハ賀表書式中第五項別紙之通改正候条、此段相達候事

明治十四年十二月廿二日　　宮内卿徳大寺実則

別紙第五項

一有位華族東京府外ニ住居并寄留之輩ハ、部長局ヲ経テ上ルベシ

但判任官以下奉職之輩ハ本文同様ト心得ベシ

一十二月廿四日松平定安殿御家令村上勝之輔罷出族長御年金金弐百弐円

右持参差上候ニ付御受取書御渡ニ相成候

一十二月廿六日左之通御達

来十五年

一日拝賀　　午前八時

但夫人同伴之事

同日皇太后宮拝賀　　同九時

一十二月廿一日

御清穆珍重存候、陳者過日右大臣殿を以拝謁御願之処、来ル廿七日午前九時被仰付候旨御沙汰有之候間、此段及御内陳候也

十二月廿一日　　実則

松平慶永殿

伊達宗城殿

一十二月廿二日午後三時ゟ石川県令千坂高雅・福井県令石黒務御招、松平正直・福島敬典・堤正誼・田辺良顕・橋本綱常・村田氏寿陪侍

一左之通御廻章相達ス

南部信民殿ゟ上野精養軒ニおゐて懇会被催、御同前出席馳走ニ相成候ニ付而ハ、為謝義何歟可差贈御相談之上御依頼御座候間、袴地料トシテ金拾円拾三人名札ヲ添、以使者差贈置候ニ付此段御承知有之度、就而ハ右御割合左之通相成候間、迂生方へ御廻し被下度候也

三日元始祭　同十時卅分
五日新年宴会　同十一時
右同時廿分前大礼服着用参内可有之候、此段相達候也
十四年十二月廿六日
来ル十五年一月
二日拝賀　午前七時卅分
同日青山御所江参賀　同八時卅分
右同時卅分前有位華族之面々大礼服着用参内候様、夫々江通達可有之、且新年宴会之節酒饌賜方例之通可取計、此段相達候也
但不参之節ハ届書可指出様、夫々江可相達候事
十四年十二月廿三日　宮内卿徳大寺実則
追而教導職六級以下拝命之輩、朝拝之義ハ其局〻通達ニ不及、此段添而相達候也

一十二月廿七日御参内御拝謁御直ニ御奏聞

臣等

誠恐誠惶謹テ十月十二日ノ勅諭ヲ奉読シ、聖意ノ存スル所ヲ知リ感喜雀躍ノ至リニ堪ヘス、謹ンテ勅諭ニ基キ微忠ヲ陳述セン、勅諭ニ曰ク立国ノ体国各宜キヲ殊ニスト、夫万国ノ国体ヲ立テ制度ヲ定ル、或ハ風俗人情ニ拠リ或ハ沿革形勢ニ拠リ各其由リテ然ル所以ノ者アラサルハナシ、故ニ彼此宜キヲ異ニシ未タ遽カニ彼ヲ以テ此ニ加フヘカラス、我国ハ我国ノ拠リテ以テ立ツ所ノ者アリ、是乃チ我ノ国本ニシテ万古ヲ貫キ天地ヲ極メテ易フヘカラサル者ナリ、聖意憲法ヲ定メラレントス、則国体ニ拠ツテ立テサルヘカラス、故ニ勅諭先ツ此ニ及フ、是臣等ノ感喜雀躍スル所以ナリ、非常ノ事業ハ軽挙ニ便ナラスト、国家ヲ経理シ万世ノ制度ヲ定ル、天下ノ事之レヨリ大ナルハナシ、若シ一タヒ之ヲ誤ラハ臍ヲ噛ムトモ及フヘカラス、形勢ヲ察シ人情ヲ量リ之ヲ思ヒ又彼ヲ思ヒ弊ナク害ナキニ至リ、然ル後制定スヘキナリ、聖諭此ニ及フ、是臣等ノ感喜雀躍スル所以ナリ

我祖　我宗照臨シテ上ニ在リト

天祖業ヲ肇メ統ヲ垂レ玉ヒシヨリ、烈聖相承ケ上下ノ分画然一定シ、一系連綿トシテ今日ニ至レリ、実ニ宇内無比ノ国体タリ、陛下天業ヲ嗣カセラレ中興ノ隆運ニ乗シテ後世子孫継クヘキノ基業ヲ立テラレ、以テ列聖在天ノ霊ニ対揚セラレントス、是臣等ノ感喜雀躍スル所以ナリ、国会ノ開設ハ明治二十三年ヲ期シ、在廷臣僚ニ時日ヲ仮シテ之ヲ経画セシムト、現今在下ノ士庶往々自立自由ノ論ヲ主張シ、動モスレハ上ヲ敬セス、法ヲ憚ラス、放肆ヲ以テ開明トシ、傲慢ヲ以テ高尚トシ、軽俊ヲ以テ才幹トシ、麤率ヲ以テ気概トシ、国会ノ論起リシヨリ囂々トシテ已マス、殆ント其挙動上ニ逼リ君ヲ蔑ニスルカ如キモノアリ、今陛下大号令ヲ発セラレ、年歳ヲ限リ在廷臣僚ヲシテ其法ヲ熟議セシム、蓋シ亦此時弊ヲ洞察シ将ニ裁抑矯正シ経画宜シキヲ得テ聖意ニ協ハシメントス、是臣等ノ感喜雀躍スル所以ナリ、組織

権限ニ至リテハ朕親ラ衷ヲ裁セント、国会ヲ唱フルモノ或ハ我国体ノ如何ヲ知ラス、風俗形勢ノ如何ヲ問ハス西洋各国ノ国体ヲ立テ制度ヲ定メシ原由ヲ詳カニセス、直チニ其法ヲ模擬シテ之ヲ我ニ施サントスル者アラハ治安ヲ防害スト言フヘシ、陛下之ヲ顧慮シ玉ヒ臣僚経画ノ後聖衷ヲ以テ之ヲ裁制シ方略権限都テ一定ノ制アリテ我国体ノ範囲ヲ出テス、之ヲ以テ聖子神孫ニ貽シ、上ハ列聖ノ神霊ヲ安ンシ下ハ国内人民ノ方向ヲ定メ玉ハントス、是臣等ノ最モ感喜雀躍スル所以ナリ、末段ニ至リ国安ヲ害スル者ハ処スルニ国典ヲ以テスヘシト、今日ノ形勢ヲ以テ之ヲ観ルニ、事変ヲ煽揺シ国安ヲ妨害スル者、国憲一定ノ後ト雖トモ之ナキヲ保チ難シ、何トナレハ時勢ノ遷転ニ従ヒ風俗モ亦随テ推移シ、昔日忠実ノ風替レテ浮薄トナリ、言論ヲ以テ是非ヲ争ヒ倫理道義ノ何物タルヲ弁セス、名ヲ政論ニ仮リ辞ヲ民権ニ托シ士庶ノ耳目ヲ眩惑シテ将ニ為ス所アランカ、或ハ其論共和政治ニ似タルモノアリ不知国体ヲ紊ルニ至ル、若シ此等ノ漸アラハ乞フ速カニ国典ヲ以テ之ヲ処シ毫モ仮借シ玉フコト勿レ、是臣等ノ切ニ希望スル所ナリ、臣等祖先以来歴朝ノ恩沢ニ浴シ維新ノ際或ハ微功アルヲ以テ非常ノ恩恵ヲ蒙リ、叨ニ人民ノ上班ニ列シ感愧シテ為ス所ヲ知ラス、不肖ノ身平素執ル所ノ業ナク尸素ノ責ヲ免レスト雖トモ、一旦緩急事アルニ当リテハ身ヲ以テ皇室ヲ保護シ恩遇ノ万一ニ報シ奉ラントス臣等ノ素志ナリ、仰願クハ此聖諭ヲ以テ終始ヲ貫キ国体ニ拠リテ国憲ヲ立テ衆庶ヲシテ之ニ率由セシメ玉ヒ、更ニ一層ヲ進メテ懇願スル所アラントス、陛下尚春秋ニ富ミ玉ヒ万機親裁ノ今日ニ当リ時々政庁ニ臨御庶政ニ練習シ玉ヒ、又時ヲ以テ内閣諸大臣・諸省長官等ニ陪膳・陪座ヲ賜ヒ、親シク其言論ニ接シ玉フハ全ク君徳美成ノ為ナラント恐察セリ、臣等因テ願フ、此事例ヲ推広シ重臣ハ勿論凡ソ在朝諸臣ヘモ普ク親近ノ意ヲ垂レサセラレ、疑案疑事等アラハ座ヲ賜ヒテ下問諮詢アリ、更ニ進講侍読ノ員ヲ増シ万機ノ余暇古今ノ治乱興敗ノ跡忠孝倫理ノ道ヲ講究シ玉ハンコトヲ、是偏ニ風教ヲ厚クシ国体ヲ固クスルノ根本ニシテ、即チ又国会開設ノ時宸衷裁断ノ基礎タルヘシ、臣等忌諱ヲ憚ラス万死ヲ冒シ鄙衷ヲ献ス、幸憫諒ヲ垂レサセ玉ヘ、誠恐誠惶頓首々々

正二位松平慶永
従二位伊達宗城
従二位毛利元徳
従二位島津忠義
従三位池田章政
従四位伊達宗徳
正五位池田輝知

明治十四年十二月廿七日

本日宮内省江天機御伺御出頭、宮内卿徳大寺実則殿江御捧呈書之御概略被仰陳、麝香間扣処ニ御扣伊達宗城殿御同伴ニ而御案内之上常御殿江御出頭御案内、天前ニ於て御両侯概旨御奏上、畢而御建言書

御捧呈ニ相成候、天皇陛下御親手御落握被為在御退下、以思召御菓子御頂戴ニ相成候、宮内省江御礼被仰上候、岩倉公ゟ御沙汰ニ付太政官江御出頭、公江御対話有之、無程御退出相成候

一同日

各宗族長
各　管長

来ル十五年一月五日新年宴会ニ付、当局ニ於テ酒饌下賜候条、勅・奏任官・麝香間詰・当日宮中祗候・明宮・滋宮祗候等ヲ除ク外在京有位華族、同日午前第十時ゟ正午十二時迄出局可有之、此旨該族管中江通知可致、此段相達候也

十四年十二月廿七日　　副督部長東久世通禧

一松平確堂殿より左之通為御知有之

拝啓然者本日以特旨被叙従三位難有仕合奉存候、右御吹聴如是御座候也

十二月廿六日　　松平確堂

御両名宛

一十二月廿八日

滋宮来ル一月十一日午前十一時青山御産所御出門、下谷区下谷二長町五拾弐番地正二位嵯峨実愛邸へ、当分之内為御逗留御引移被遊候旨被仰出候条、此段為心得相達候也

十四年十二月廿五日　　宮内卿徳大寺実則

〆

第二部華族
正四位松平茂昭

右本年十一月中為墓参福井県下福井表へ旅行願候処、於同県無拠用事有之ニ付、来明治十五年一月六日ゟ日数三十日間同処へ滞在仕度旨申越候ニ付、此段私ゟ奉追願候也

明治十四年十二月　　右留守心得第弐部宗族
正二位松平慶永

宮内卿徳大寺実則殿

一同日左之通御布達

自今麝香間祗候之面々新年朝拝并宴会・紀元節・天長節ニ限り皇居御車寄ゟ昇降被指許候条、此段相達候也

十四年十二月廿八日　　宮内卿徳大寺実則

右被触候間申入候、早々御廻覧之上三十日迄ニ御返却給度候也

十四年　　中山忠能

麝香間御同列宛